

蔵王町内遺跡発掘調査報告書 6

各種開発事業に伴う確認調査・分布調査（平成 29 年度）



根方 A 遺跡 竪穴住居跡（縄文時代）

根方 A 遺跡
湯坂山 B 遺跡
東浦遺跡
上原田遺跡ほか

2019 年 3 月

宮城県刈田郡蔵王町教育委員会

蔵王町内遺跡発掘調査報告書 6

各種開発事業に伴う確認調査・分布調査（平成 29 年度）

根方 A 遺跡

湯坂山 B 遺跡

東浦遺跡

上原田遺跡ほか

2019 年 3 月

宮城県刈田郡蔵王町教育委員会

序 文

蔵王町内には、旧石器時代から江戸時代に至るまで数多くの埋蔵文化財包蔵地が残されています。これらは先人の生活文化を伝える貴重な「文化遺産」であり、まだ文字がなかった時代の人々の暮らしぶりや、古文書などには記されていない地域の実情を、私たちにありのままに教えてくれるものです。

当教育委員会といたしましても、文化財保護法に基づき各種開発事業との円滑な調整を図りつつ、国民共有の歴史的財産である埋蔵文化財を保護し、保存・活用を図りながら次の世代に継承していけるよう努めているところです。

本報告書は、平成 29 年度に各種開発事業計画と埋蔵文化財の関わりを確認するために実施した確認調査と、今後開発が予想される地区で実施した分布調査の結果を収録したものです。このうち、店舗建築・用地造成工事計画に伴って確認調査を実施した根方 A 遺跡では、縄文時代中期後葉頃と平安時代の竪穴住居跡など多数の遺構が確認され、当時の集落跡であることが判明しました。

今回報告する調査成果は、それぞれの遺跡の全容を示すものではありませんが、発見された遺構や出土品は、かつてそこにいにしえの人びとの暮らしがあったことを、私たちに生き生きと語りかけてくれます。これらひとつひとつの成果を積み重ねていくことが、地域の歴史解明につながるものと確信しております。

また、当教育委員会では、遺跡調査成果の公開・活用を進めるため、遺跡見学会や文化財展の開催、文化財広報誌やリーフレット、インターネットを通じた情報発信など、今後もより多くの町民の皆様に興味を持っていただけるような取り組みを実施して行きたいと考えております。

なお、根方 A 遺跡で確認した遺構群は縄文・平安時代の集落跡の主体部と考えられることから、開発事業主様に現状保存を要請したところ、工事計画の変更にご協力をいただき、遺構の保存を図りながら事業が進められることになりました。当教育委員会では、今後もこのように各種開発事業と埋蔵文化財保護の両立が図られるよう、関係各位と連携しながら協議・調整にあたって参ります。

最後になりましたが、各種開発事業主および地権者の皆様をはじめ関係各位には、文化財保護の重要性について深いご理解を賜り、調査の実施や事業計画との調整等にご協力いただきました。ここに心より深く感謝申し上げますとともに、今後もより一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成 31 年 3 月

蔵王町教育委員会
教育長 文谷 政義

例 言

1. 本書は、蔵王町教育委員会が埋蔵文化財保護調整事務の一環として実施した蔵王町内に所在する遺跡の調査報告書である。
2. 本書で報告するのは、平成 29 年度に実施した下記の調査の成果であり、平成 30 年度に整理・報告書作成作業を実施した。
各種開発事業と遺跡の関わりの詳細を確認する目的で実施した確認調査
(根方 A 遺跡・湯坂山 B 遺跡・東浦遺跡)
各種開発事業が予想される地区で実施した分布調査
(上原田遺跡・逆川遺跡)
3. 本調査とその整理・報告書作成作業は、蔵王町教育委員会が主体となり、生涯学習課文化財保護係が担当した。平成 29・30 年度の職員体制は下記のとおりである。
教 育 長 文谷 政義
生涯学習課長 我妻 清志
課 長 補 佐 北沢 夕子 (H29) 我妻 敏 (H30) 佐藤 洋一
文化財保護係長 鈴木 雅
文化財専門職臨時職員 庄子 善昭 我妻 英子 我妻 なおみ 鈴木 和美 江尻 祥子
文化財作業員 大沼 恭子 菅野 慶一 佐藤 かおる 佐藤 貴美子 辰口 創野 松崎 祐二
松田 律子 渡部 真理
4. 上原田遺跡・逆川遺跡の分布調査と整理作業に際して、東北歴史博物館上席主任学芸員 相原淳一氏より御指導・御協力を賜った。記して深甚より謝意を表する次第である。
5. 本調査の整理作業は、鈴木雅と文化財専門職臨時職員が分担し、文化財作業員がこれを助けた。なお、石器実測図の作成は創和システム株式会社に委託した。
6. 遺物実測図の作成は、縄文土器・土製品を江尻祥子、石器を廣田吉三郎（創和システム株式会社）、土師器・須恵器を庄子善昭が担当した。遺物観察表は各実測者の所見を基に鈴木雅が作成した。
7. 遺物写真の撮影・現像は庄子善昭が担当した。
8. 本書の執筆・編集は鈴木雅が担当した。
9. 本調査の写真・図面等の記録資料と出土遺物は、蔵王町教育委員会が一括して保管している。

凡 例

1. 本書に掲載した遺跡分布図・位置図、調査区配置図・遺構平面図の方位は座標北を示している。
2. 本書に掲載した遺跡分布図・位置図は下記の図幅を使用して作成した。
第 3 図：5 万分の 1 都道府県土地分類基本調査 地形分類図「白石」（宮城県、昭和 58 年調査）
第 5・6・14・17・20 図：電子地形図 25000（国土地理院、平成 24 年図式、平成 28 年 6 月 13 日調製）
3. トレンチ配置図・遺構配置図に記載した現況 GL からの深度は、掘削したトレンチ底面の深度であり、遺構残存面と一致しない場合がある。
4. 土色の記述は、「新版 標準土色帖（2005 年版）」（小山・竹原 1967）を参照した。
5. 遺物実測図の縮尺は、それぞれ図中にスケールを付して示した。
6. 報告書抄録に記載した各遺跡の緯度・経度は、地理院地図（<http://maps.gsi.go.jp/>）で取得した調査地点付近の参考値（世界測地系）である。
7. 引用文献および執筆にあたり参考にした文献・報告書については本文中に注釈として記載した。なお、蔵王町文化財調査報告書については巻末に既刊目録を掲載し、本文中の引用箇所では「町 20 集」のように省略して記載した。

目次

序文

例言

凡例

目次

第1章 蔵王町の環境と遺跡	1
第1節 地理的環境	1
第2節 歴史的環境	1
第2章 平成29年度の調査概要	11
第1節 埋蔵文化財保護調整	11
第2節 埋蔵文化財の調査等	11
第3章 調査の成果	15
第1節 確認調査	15
1. 根方A遺跡	15
2. 湯坂山B遺跡	29
3. 東浦遺跡	31
第2節 分布調査	33
1. 上原田遺跡ほか	33
第4章 総括	39

蔵王町文化財調査報告書 既刊目録

報告書抄録

第1章 蔵王町の環境と遺跡

第1節 地理的環境

位置 蔵王町は東北地方南部太平洋側、奥羽脊梁山脈に連なる蔵王連峰の東麓に位置する(第1・2図)。行政区分では宮城県南西部の刈田郡に属し、西側で山形県境と接する。県庁所在地の仙台市からは南西約30kmの距離にある。町域は東西に長く、東西23km、南北13km、面積152.83km²である。

地形 町域内の海拔標高は最高点が西端の屏風岳で1,825m、最低点が南東部の松川と白石川の合流点で20mを測る。大まかに見ると、西部は蔵王連峰の山岳地帯(標高500m以上)と高原地帯(標高300~500m)、東部は丘陵地帯(標高300m以下)となっている。

蔵王連峰と裾野の丘陵地を開析しながら東流する松川は、青麻山の東麓で流路を南へ向けて白石川に注ぐ。町域の東部に河岸段丘面を形成し、北東部では支流の藪川流域に円田盆地を擁する(第3図)。松川河岸段丘群は主に松川左岸で上位から遠刈田段丘面、永野段丘面、矢附段丘面に区分される。また、青麻山東麓では谷底の主面に曲竹段丘面が形成されている。円田盆地は東西1.2km、南北3.5kmの底面を持ち、南を除く三方を丘陵が画する。盆地北側から西側にかけては高木丘陵、東側は愛宕山丘陵と通称されている。盆地内を蛇行しつつ南流する藪川は自然堤防が未発達で、流域に湿地帯を形成した。



第1図 蔵王町の位置

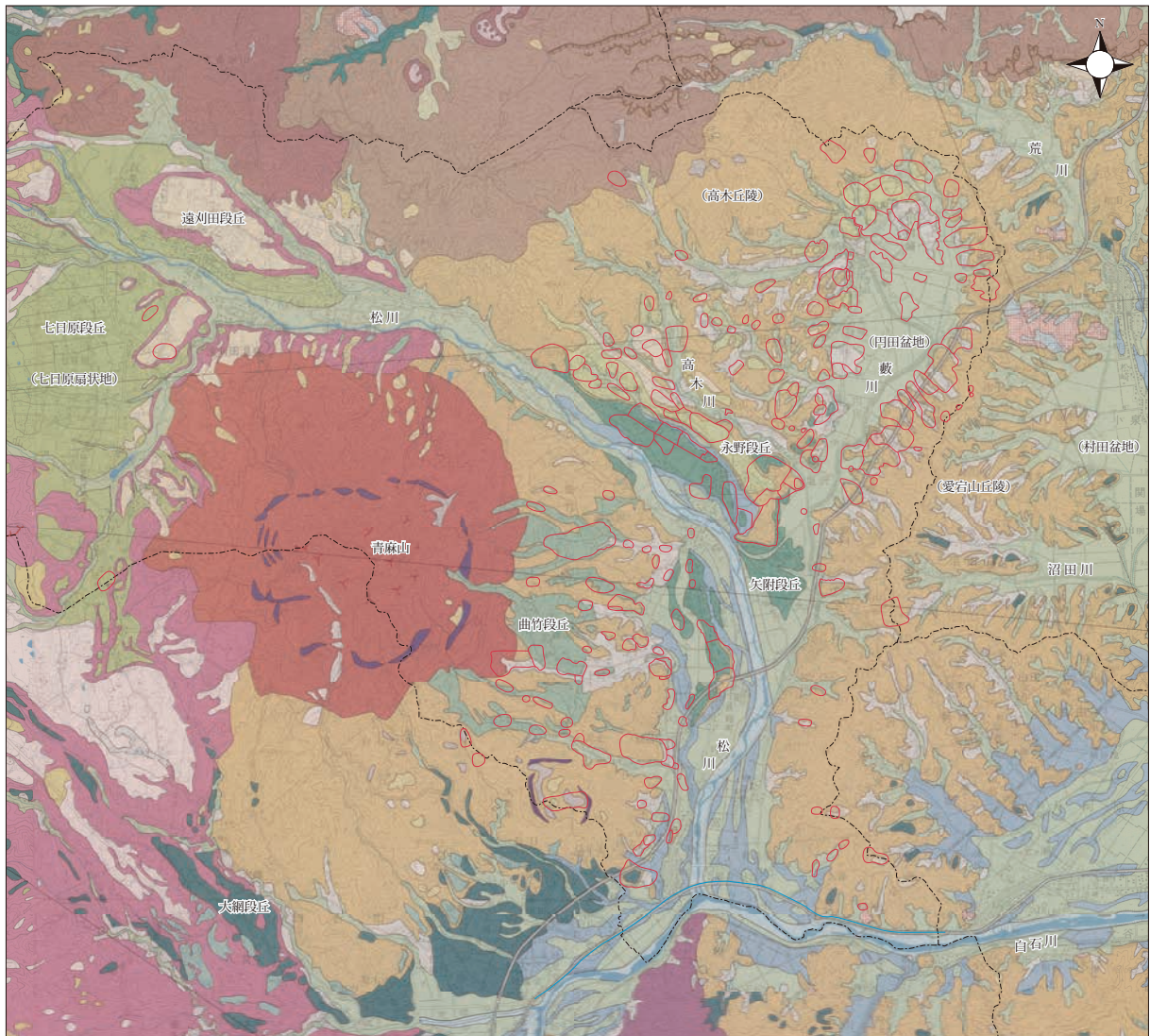
第2節 歴史的環境

遺跡の概況 町域内における周知の遺跡は現在203か所を数える。その多くは町域東部の平野・丘陵地帯に分布し、①青麻山東麓の丘陵と段丘上、②松川北岸の段丘と丘陵上、③円田盆地に接する丘陵上に集中域を形成する(第3・5図)。なお、町域西部の高原地帯では七日原扇状地の扇端部に少数の遺跡が分布する(註1)。これらの遺跡の多くは、複数の時代や時期区分に比定される活動痕跡が重複する複合遺跡であるが、時代や時期ごとの分布には一定の傾向が認められ、主に生業形態の変化を反映している。

各遺跡に残された活動痕跡を時代区別的に集計するとその総数は延べ546か所を数え、時代・時期ごとの人間活動の動態を窺い知ることができる(第4図)。



第2図 蔵王町



山地及び丘陵地

- (蔵王火山)
- 山麓丘陵地
- (青麻火山)
- 山地
- 尖頂峰
- 火山性急崖
- (非火山性山地)
- 奥羽山脈の山地(巖々)
- 大鳥谷山地
- 山頂平坦地(大森付近)
- 大萩山山地
- (非火山性丘陵地)
- 高い丘陵地
- 低い丘陵地
- 頂部平坦地
- 高位谷底
- 旧火山性急崖

低地

- 河岸平野・谷底平野
(後背湿地を区別した区域では自然埋防)
- 後背湿地
- 河原及び堤内地

台地及び段丘

- 高位段丘
- (蔵王東麓段丘群)
- 火山泥流台地(弥治郎泥流台地)
- 遠刈田段丘
- 七日原段丘
- 川原子段丘
- 蔵本段丘
- 大綱段丘
- (松川段丘群)
- 永野段丘
- 曲ヶ竹段丘
- 矢附段丘
- 低位段丘
- その他**
- 人工平坦地(主として切土による部分)
- 人工平坦地(主として盛土による部分)
- 支倉川流域と荒川流域の間の崖線

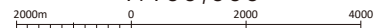
遺跡

- 遺跡範囲 (蔵王町域内のみ)

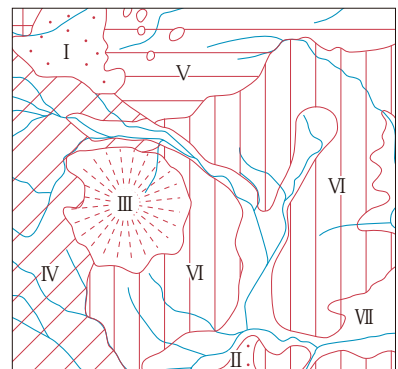
行政界

- 市町の境界

1:100,000



この地図は、国土調査による1/50,000土地分類基本調査(地形分類図)「白石」(宮城県1983)を使用して作成したものである。



地形区分図

- I 大鳥谷山地
- II 大萩山地
- III 青麻火山
- IV 蔵王山麓丘陵地
- V 高い丘陵地
- VI 低い丘陵地
- VII 白石川河岸平野



行政区分図

第3図 蔵王町の地形区分と遺跡の分布

旧石器時代の活動痕跡は、松川右岸の段丘上に4か所が認められる。いずれも単独出土・採集資料のため、帰属時期や活動の内容には不明な点が多い。

縄文時代の活動痕跡は、青麻山東麓から松川左岸にかけての段丘・丘陵上などに延べ208か所の活動痕跡が認められ、各時期の集落立地の傾向に違いが見られる。草創期は明確な活動痕跡に乏しいが、早期は青麻山東麓から松川両岸の段丘面上、円田盆地の丘陵部、七日原扇状地などに点在する。前期は青麻山東麓から松川両岸の段丘面上に多く分布する。中期は松川両岸の段丘面上に多く分布する。後期は青麻山東麓から松川両岸の段丘面上に多く分布する。晩期は青麻山東麓の沢地形に面した段丘上に多く分布する。

弥生時代の活動痕跡は、80か所が丘陵地帯の広範囲に点在する。前期の活動痕跡は少ないが、青麻山東麓で縄文時代晩期からの継続が見られる。中期になると、松川左岸の段丘面上から円田盆地の丘陵部・微高地上にかけて多く分布するようになり、遺跡分布上の大きな画期となっている。後期は円田盆地の丘陵部から微高地上にかけて多く分布する。

古墳時代の活動痕跡は、63か所が認められる。多くは円田盆地の丘陵・微高地上に集中しており、一部が松川・白石川の合流点付近の丘陵上に分布する。前期の集落は円田盆地の丘陵上に立地する。中期の集落は円田盆地の丘陵上と、盆地底面の微高地上に立地する。後期の集落は未確認である。町内の高塚古墳は前方後円墳と円墳の築造が見られ、円田盆地の丘陵上、青麻山東麓の松川・白石川の合流点付近の低丘陵上に分布する。また、円田盆地の丘陵麓と松川・白石川の合流点付近の丘陵麓に小規模な横穴墓群が分布する。

古代の活動痕跡は、131か所が認められる。その分布は円田盆地の丘陵・微高地上に集中し、青麻山東麓から松川左岸にかけての丘陵・段丘・微高地上の広範囲には比較的小規模とみられる活動痕跡が点在する。飛鳥・奈良時代の集落などは円田盆地の丘陵部・微高地上に立地する。平安時代は円田盆地や青麻山東麓のほか、松川両岸の段丘面上に点在する。

中世の活動痕跡は、40か所が認められる。このうち15か所は城館跡で、

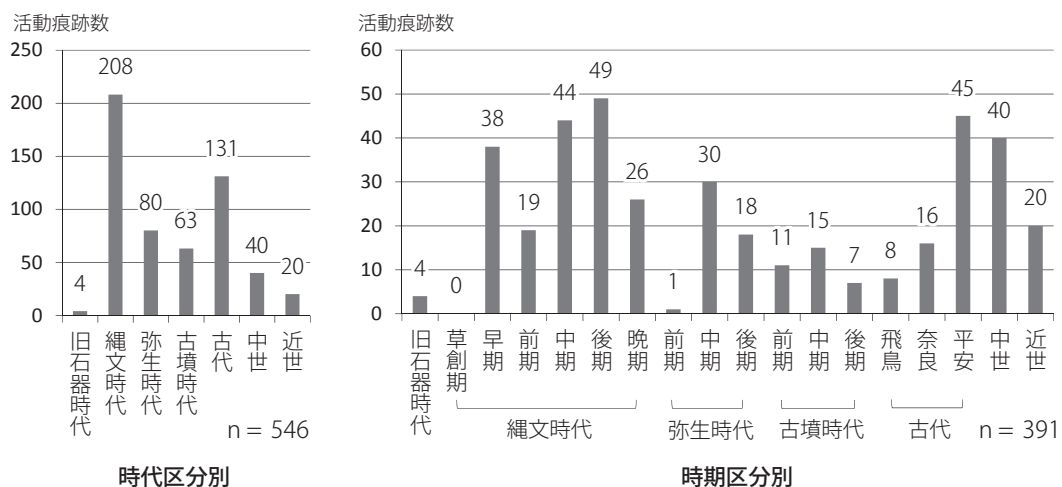
註1. 南に隣接する白石市域では、不忘山東麓から青麻山南麓にかけての標高700m付近まで遺跡の分布が確認されており、縄文時代早期のものが多い。蔵王町域の七日原扇状地から青麻山西麓の丘陵・段丘面においても、蔵王火山の活動に伴う新期の火山灰層に被覆された未発見の遺跡の存在が予想される。

主要な遺跡

旧石器時代 ナイフ形石器が単独出土した持長地遺跡、彫刻刀形石器が採集された鉄砲町遺跡（地点不明）、槍先形尖頭器が採集された前戸内遺跡がある。

縄文時代 上原田遺跡・明神裏遺跡では早期前葉の薄手無文土器が出土している。また、明神裏遺跡は早期中葉の明神裏Ⅲ式土器（貝殻沈線文）の標識遺跡となっている。磯ヶ坂遺跡では早期後葉の条痕土器（茅山下層式期）、長峰遺跡では前期前葉の大木2a式土器が出土している。集落跡の調査例としては、中期の谷地遺跡（大木7a～8a式期）、鞆堂山遺跡（同8a～8b式期）、湯坂山B遺跡（同9・10式期）、二屋敷遺跡（大木10式期）、後期の二屋敷遺跡・西浦B遺跡（網取Ⅱ式並行期）、晩期の鍛冶沢遺跡などがある。

弥生時代：鍛冶沢遺跡では前期の再埋葬が確認されている。西浦遺



※各時代・時期区分の時間幅は均等ではない。また、時期区分が不明な活動痕跡があるため、時代別の合計と時期区別の合計は一致しない。

第4図 蔵王町域の遺跡における活動痕跡の動態

第1章 蔵王町の環境と遺跡

青麻山東麓から円田盆地西縁にかけての丘陵上に点在する。また、城館跡の周辺を中心に段丘・微高地上で屋敷跡が確認されている。

近世の活動痕跡は、20か所が確認されている。円田盆地の丘陵部に城館跡が立地し、丘陵部から微高地上にかけて屋敷跡や墓地を確認している。遠刈田地区の松川左岸には岩崎山金山跡がある。現存する近世の建造物としては、青麻山東麓の我妻家住宅（江戸中期、国指定文化財）、奥平家住宅（江戸後期、町指定文化財）、刈田嶺神社本殿（江戸中期、県指定文化財）、日吉神社本殿（江戸中期）などがある。刈田嶺神社は刈田郡総鎮守、白石城主片倉氏の総守護神である。奥州街道の宮宿から分岐して出羽へ至る笹谷街道は町東部を南北に通過し、永野宿、猿鼻宿が置かれた。宮一永野宿間に曲竹一里塚（町史跡）が現存し、円田盆地西側の四方峠付近には古道の一部が保存され往時の景観を偲ばせている。

刈田地方の歴史 刈田郡に関する最古の記録は、「続日本紀」に記された養老5年（721年）の陸奥国苅田郡建置に関する記事である。これによると刈田郡は柴田郡のうち二郷を分割して設置され、苅田郡成立以前の当地方は柴田郡の郡域に属したことが知られる。当地方は7世紀半ばに成立した陸奥国の北辺であった亙理・伊具地方と接する地域であり、陸奥国成立後の早い段階で律令政府の統治下に置かれたとみられる。

平安時代末期には奥州藤原氏の支配下にあったとみられ、丈六阿弥陀如来坐像を安置する阿弥陀堂が建立された（註2）。また、奥州合戦について「吾妻鏡」の伝えるところでは、文治5年（1189年）に藤原泰衡軍は刈田郡根無藤（蔵王町円田）に城郭を構え、「四方坂」（同平沢）との間で源頼朝軍と進退七度に及ぶ戦いの末に敗退したという。このことから、当時この地域が軍事上重要視されており、近世の笹谷街道の一部となる根無藤から四方坂を経る道筋が、既に出羽国へ至る出羽道の一部として機能していたことが窺える。

鎌倉時代以降は白石氏（刈田氏）が刈田郡の中心勢力であった。白石氏は南隣の伊達郡を本拠とする伊達氏との関係が深く、戦国時代には伊達氏の傘下に組み込まれた。天正18年（1590年）に豊臣秀吉による奥州仕置で刈田郡は伊達領と確定されたものの、翌年の再仕置で伊達政宗が岩出山城へ移封され、刈田郡は長井・信夫・伊達などの各郡とともに会津黒川城に入封した蒲生氏郷に与えられた。慶長3年（1598年）には蒲生氏に代わって会津に入封した上杉景勝の領地となり、家臣甘粕備後景継が白石城主となったが、政宗は慶長5年（1600年）に徳川家康の意を受けて上杉氏を押さえるため白石城を攻めて奪還し、刈田郡は仙台藩領となった。政宗は慶長7年（1602年）に重臣・片倉景綱を白石城主とし、藩境西南の固めを任せた。以後は代々片倉氏が白石城主を務め、江戸時代を通じて刈田郡の過半は片倉氏の知行地であった。

江戸時代には奥羽山脈を挟んで陸奥国を奥州街道、出羽国を羽州街道が縦貫しており、刈田郡内にも奥州街道が白石城下を通過していた。また、奥州街道の宮宿（蔵王町宮）から分岐して永野宿（同円田）、猿鼻宿、四方峠（同平沢）を経由し、笹谷峠を越えて山形の羽州街道へ抜ける笹谷街道も設けられていた。

跡では中期の長頸壺が採集され、円田式土器の標識遺跡となっている。磯ヶ坂遺跡では後期後半の複合口縁壺が出土している。

古墳時代：集落跡の調査例として前期の大橋遺跡・堀の内遺跡・六角遺跡・立目場遺跡、中期の中沢A遺跡・立目場遺跡などがある。墳墓としては夕向原1号墳（前方後円墳・主軸長57m）、古峯神社古墳（同・38m）、宋膳堂古墳（円墳・直径約35m）、鉾附神社古墳（同・約25m）、天王古墳（同・約23m）、明神裏古墳（箱式石棺）、諏訪館横穴墓群などがある。

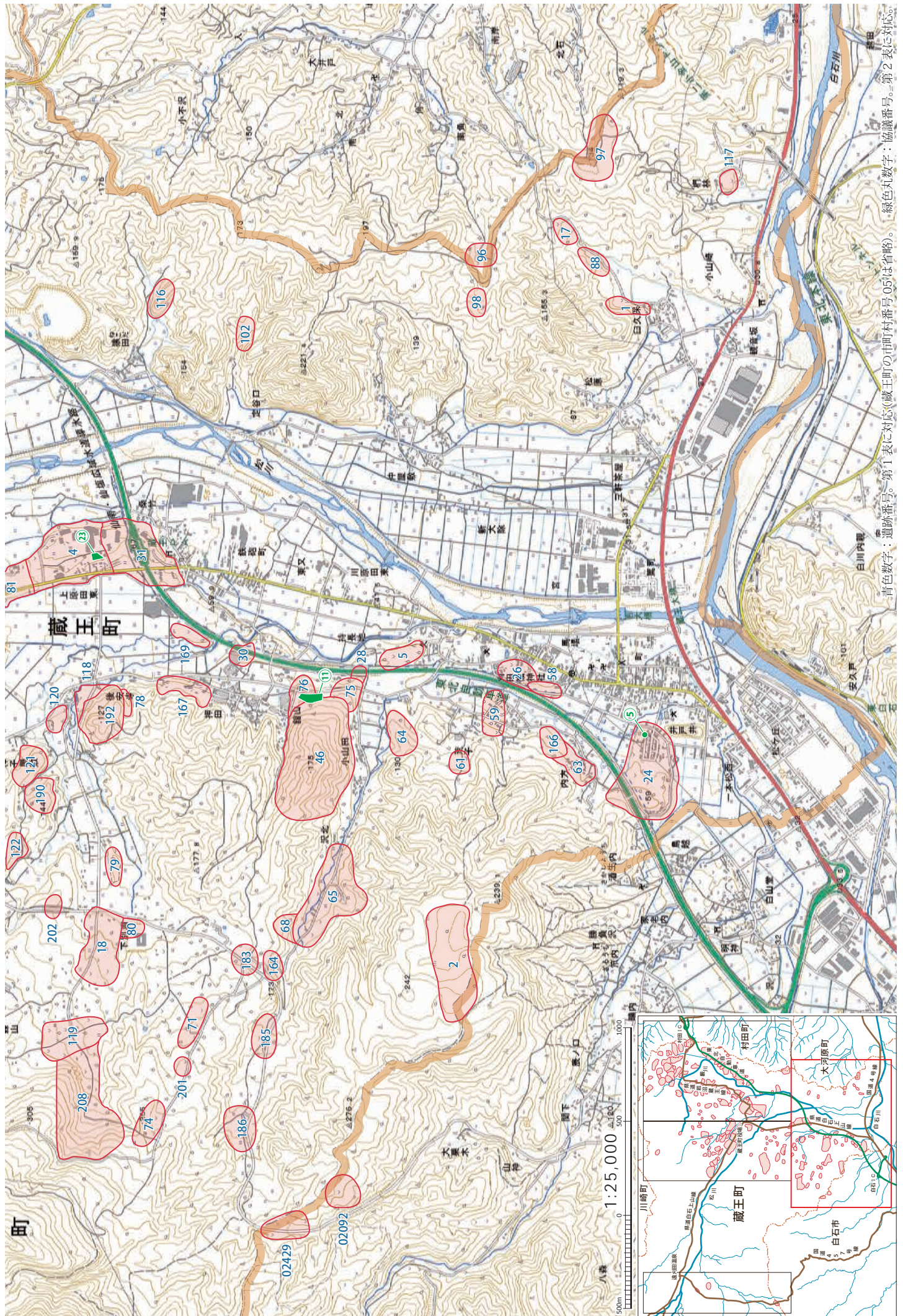
古代：十郎田遺跡では材木堀と大溝による大規模な区画施設を伴う7世紀後半の集落跡を確認している。都遺跡では大型掘立柱建物跡群が確認され、周辺から7世紀末～8世紀初頭頃の瓦が出土している。窪田遺跡では7世紀後半～8世紀前半の掘立柱建物跡を含む遺構群を確認している。六角遺跡・堀の内遺跡では8世紀前半の集落跡を確認しており、六角遺跡では大溝区画を伴う。前戸内遺跡では9世紀前葉～中葉の掘立柱建物跡を含む遺構群を確認し、「刈田」墨書土器などが出土している。東山遺跡では9世紀中葉の土器溜溝構から「万田」などの墨書土器が多量に出土している。

中世：十郎田遺跡では13世紀中頃の屋敷跡を確認し、井戸跡中層から多量の挽物未成品が出土している。西小屋館跡に隣接する西屋敷遺跡では区画溝を伴う13世紀後半～15世紀前半頃の屋敷跡、山家館跡の麓部に位置する持長地遺跡では13～14世紀頃の屋敷跡を確認している。

近世：車地藏遺跡では17世紀頃の有力者層の屋敷跡を確認している。

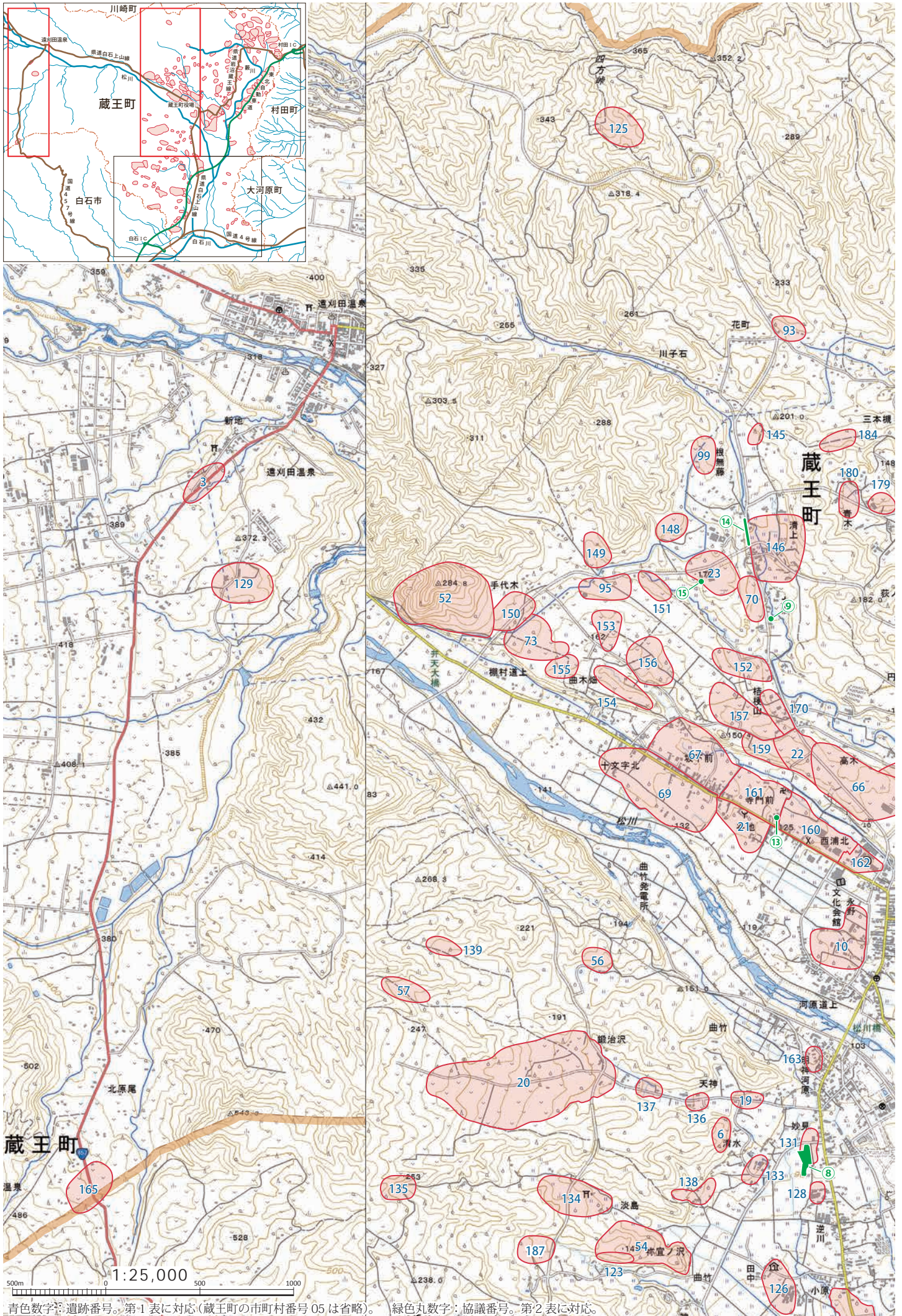
註2. 阿弥陀堂の創建時に植えられたと伝わる参道杉並木の1本が平沢字丈六地内に現存する（県指定天然記念物「平沢弥陀の杉附戒石銘」）。丈六阿弥陀如来坐像は地区内の保昌寺に現存する（県指定文化財）。

第5-1図 蔵王町遺跡地図・協議箇所位置図(1)



青色数字：遺跡番号。第1表に対応(蔵王町の市町村番号05は省略)。 緑色丸数字：協議番号。第2表に対応。

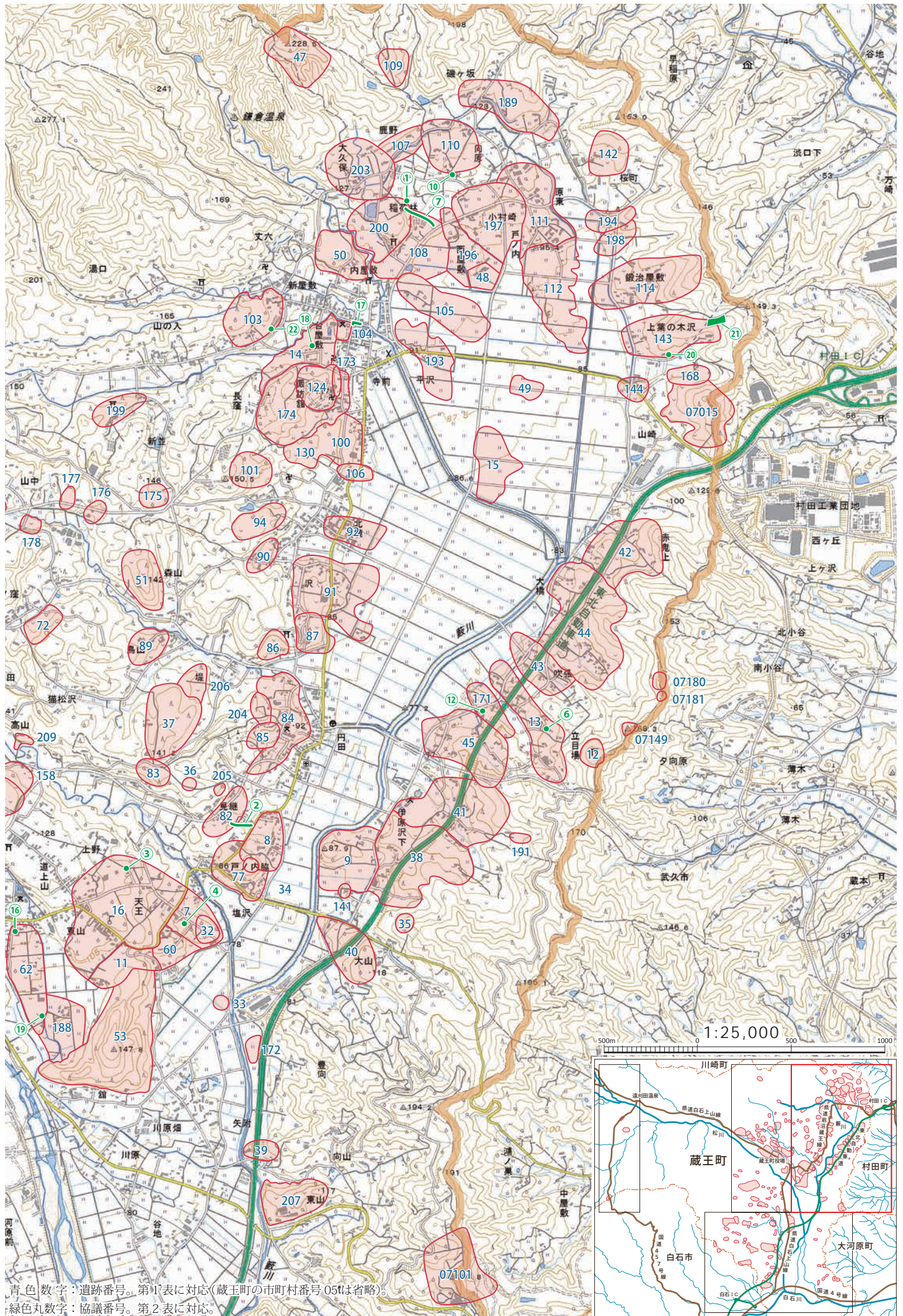
第5-2図 蔵王町遺跡地図・協議箇所位置図(2)



青色数字：遺跡番号。第1表に対応(蔵王町の市町村番号05は省略)。

緑色丸数字：協議番号。第2表に対応。

第5-3図 蔵王町遺跡地図・協議箇所位置図(3)



第 1-1 表 蔵王町内遺跡一覧（1）

番号	遺跡名	種別	時代	番号	遺跡名	種別	時代
05001	向上遺跡	散布地・横穴墓	古墳、古代	05054	曲竹小屋館跡	城館	中世
05002	上平遺跡	散布地	縄文、古代	05056	馬越遺跡	散布地	縄文中
05003	新地遺跡	散布地	古代	05057	鍛冶沢北遺跡	散布地	縄文早・中～晩、古代
05004	上原田遺跡 (境松遺跡)	散布地	縄文早～後、古墳、古代	05058	馬場北遺跡	散布地	縄文早、平安
05005	長峰遺跡	散布地	縄文前・中、弥生中、古代	05059	乙当地遺跡	散布地	旧石器、縄文早、平安
05006	清水遺跡	散布地	縄文・弥生中	05060	蟹沢遺跡	散布地	弥生中
05007	天王遺跡	散布地	縄文早・中、弥生中・後、古代	05061	荒子遺跡	散布地	古代
05008	宋膳堂遺跡	散布地	弥生中・後、古墳、平安	05062	東浦遺跡	散布地	縄文中・後、弥生中、古墳、古代
05009	台遺跡	集落・散布地・水田	弥生中、古墳中・後、平安、中世、近世	05063	内方遺跡	散布地	古代
05010	西浦遺跡	集落・散布地	縄文早～後、弥生、古代	05064	小山田遺跡	散布地	縄文、古代、中世
05011	下永向山遺跡	散布地	縄文中、弥生中・後、古代	05065	山田沢遺跡	散布地	縄文後・晩
05012	愛宕山遺跡	集落・散布地	弥生中・後、古墳前・中、古代	05066	高木遺跡	散布地	縄文中
05013	立目場遺跡	集落・散布地	縄文早・前、弥生中・後、古墳前・中	05067	曲木遺跡	散布地	縄文中
05014	諏訪館前遺跡	集落・散布地	縄文晩、弥生、古墳前・中、平安、中世、近世	05068	沢北遺跡	散布地	縄文後・晩、弥生中
05015	都遺跡	集落・散布地	縄文後、弥生中・後、古墳前～後、飛鳥～平安、中世	05069	十文字遺跡	散布地	縄文中
05016	上野遺跡	散布地	縄文中、弥生中、平安	05070	湯坂山遺跡	散布地	縄文中～晩
05017	白ヶ久保入遺跡	散布地	縄文前・中、古代	05071	沢入遺跡	散布地	縄文早・中・後、古代
05018	下別当遺跡	散布地	縄文中～晩	05072	荻の窪遺跡	散布地	縄文晩、弥生
05019	日向前遺跡	散布地	縄文早・晩、古代	05073	棚村遺跡	散布地	縄文後
05020	鍛冶沢遺跡	集落・散布地	縄文早・中～晩、弥生前・中、古代	05074	遠森山下遺跡	散布地	縄文晩、古代
05021	谷地遺跡	集落・散布地	縄文中～晩	05075	八幡平遺跡	散布地	縄文前・中、古代
05022	鞆堂山遺跡	集落・散布地	縄文中・後、弥生、古代	05076	根方 A 遺跡	散布地	縄文後
05023	湯坂山 B 遺跡	集落・散布地	縄文中～晩、弥生	05077	戸の内脇遺跡	散布地	縄文早・中、弥生中、古墳、平安、中世
05024	宮城館跡	城館・散布地	縄文、弥生中、古墳中、中世	05078	中野 A 遺跡	散布地	縄文後、古代
05026	明神裏遺跡	古墳・散布地	旧石器、縄文早・前、弥生中、古墳中、平安	05079	下別当下遺跡	散布地	縄文後
05028	持長地遺跡	集落・散布地	旧石器、縄文前～後、弥生、古墳、古代、中世	05080	小屋場遺跡	散布地	縄文後・晩
05030	二屋敷遺跡	集落・散布地	縄文早・中～晩、平安、中世	05081	逆川遺跡	散布地	縄文早・前・後
05031	下原田遺跡	集落・散布地	縄文前～晩、弥生後、平安	05082	土ヶ市遺跡	散布地	弥生、古代
05032	天王古墳群	円墳	古墳	05083	見継遺跡	散布地	縄文
05033	鉦附神社古墳	円墳	古墳	05084	堀の内遺跡	集落・散布地	縄文、弥生中・後、古墳前～後、奈良、平安
05034	宋膳堂古墳	円墳	古墳	05085	寺坂遺跡	散布地	平安
05035	中屋敷古墳	円墳	古墳	05086	清水上遺跡	散布地	弥生、平安
05036	八幡山古墳群	円墳・方墳	古墳	05087	白山遺跡	集落・散布地	弥生、古墳中
05037	花楯館跡	城館	中世	05088	松ヶ沢遺跡	散布地・横穴墓？	縄文後、古墳、古代
05038	塩沢北遺跡	集落・散布地	弥生中・後、古墳中・後、飛鳥、平安	05089	鳥山遺跡	散布地	縄文中、古代
05039	東山遺跡	集落・散布地	縄文早、平安	05090	沢遺跡	散布地	古代
05040	大山遺跡	集落・散布地	縄文早、弥生中、古墳前	05091	本宿前遺跡	集落・散布地	縄文早、弥生中、平安、中世
05041	伊原沢下遺跡	集落・散布地	古墳前・中、中世	05092	中組遺跡	集落・散布地	縄文早・中、弥生、平安、中世、近世
05042	赤鬼上遺跡	集落・散布地	弥生中・後、平安、中世	05093	町尻遺跡	散布地	縄文
05043	屋木戸内遺跡	散布地	弥生中、古代	05094	北境遺跡	散布地	縄文早、弥生後、古代
05044	大橋遺跡	集落・散布地	縄文後、弥生中・後、古墳前、平安	05095	手代木遺跡	散布地	縄文早、弥生
05045	中沢 A 遺跡	集落・散布地	縄文早、弥生中・後、古墳中・後、古代、中世	05096	東久保遺跡	散布地	古代
05046	山家館跡	城館	中世	05097	大久保遺跡	散布地	縄文中・後
05047	兵衛館跡 (兵糧館跡)	城館・散布地	縄文、弥生、古代、中世	05098	大平山遺跡	散布地	縄文
05048	西小屋館跡	城館・散布地	平安、中世	05099	根無藤館跡	城館	中世
05049	新城館跡	城館・散布地	弥生、飛鳥、平安、中世	05100	小高遺跡	散布地	縄文、弥生、古代
05050	平沢館跡	城館	中世	05101	大柿内遺跡	散布地	弥生
05051	築館館跡	城館	中世	05102	定谷口遺跡	散布地	縄文後、古代
05052	棚村館跡	城館	中世	05103	丈六遺跡	散布地	古代
05053	矢附館跡	城館	中世	05104	平沢遺跡	散布地	古代
				05105	十郎田遺跡	集落・散布地	縄文、古墳中～後、飛鳥～平安、中世、近世
				05106	堂の入遺跡	散布地	弥生、古代、中世

第 1-2 表 蔵王町内遺跡一覧（2）

番号	遺跡名	種別	時代	番号	遺跡名	種別	時代
05107	大久保東遺跡	散布地	古墳、奈良、平安	05166	天王前遺跡	散布地	縄文、古代
05108	前戸内遺跡	集落・墓地・散布地	旧石器、縄文後、弥生中・後、古墳中、奈良、平安、中世、近世	05167	根方 B 遺跡	散布地	古代
05109	鹿野遺跡	散布地	古代	05168	山崎遺跡	散布地	縄文早
05110	後原遺跡	散布地	縄文、古墳、奈良、平安	05169	中野 B 遺跡	散布地	古代
05111	原遺跡	集落・散布地	縄文、古墳前、平安、近世	05170	桔梗山 B 遺跡	散布地	縄文
05112	六角遺跡	集落・墓地・散布地	縄文早、弥生中・後、古墳前・後、奈良、平安、中世、近世	05171	中沢 B 遺跡	散布地	弥生中、古墳、古代
05114	鍛冶屋敷遺跡	集落・散布地	縄文中～晩、古代、近世	05172	豊向遺跡	散布地	古墳
05116	一本木遺跡	散布地	縄文中・後	05173	諏訪館横穴墓群	横穴墓	古墳
05117	櫛林遺跡	散布地	古代	05174	諏訪館遺跡	散布地	弥生、古墳
05118	青竹遺跡	集落・散布地	縄文後・晩、弥生後、平安、中世、近世	05175	新並遺跡	散布地	縄文中
05119	願行寺遺跡	散布地・寺院	縄文後、古墳	05176	角山 B 遺跡	散布地	縄文
05120	後安寺遺跡	散布地	古代	05177	角山 A 遺跡	散布地	古代
05121	若神子山遺跡	散布地	縄文後	05178	青木遺跡	散布地	平安
05122	足の又遺跡	散布地	縄文晩	05179	山中遺跡	散布地	平安
05123	称宜ノ沢遺跡	散布地	縄文後	05180	入青木遺跡	散布地	縄文
05124	諏訪館跡	城館	中世	05183	沢入 B 遺跡	散布地	縄文後
05125	四方坂館跡	城館	中世	05184	三本槻 A 遺跡	散布地	縄文早
05126	小原遺跡	集落・散布地	縄文晩、平安	05185	遠森山遺跡	散布地	縄文晩
05128	下原遺跡	散布地	縄文中	05186	沢入 C 遺跡	散布地	縄文
05129	七日原遺跡	散布地	縄文前	05187	欠山遺跡	散布地	縄文
05130	経塚	経塚	中世	05188	下永野 B 遺跡	散布地	奈良、平安
05131	上原遺跡	散布地	縄文後	05189	磯ヶ坂遺跡	集落・墓地・散布地	縄文早、弥生後、奈良、平安、近世
05133	妙見遺跡	散布地	縄文晩	05190	若神子山 B 遺跡	散布地	縄文前・後
05134	淡島山遺跡	散布地	縄文後、古代	05191	宮ヶ内上遺跡	製鉄	近世
05135	立石遺跡	散布地	縄文後	05192	館の山城跡	城館	中世
05136	八卦遺跡	散布地	縄文後	05193	窪田遺跡	集落・散布地	縄文、弥生後、古墳中・後、飛鳥～平安、中世
05137	市ノ沢遺跡	散布地	弥生、古代	05194	三の輪遺跡	散布地	古墳、奈良、平安、近世
05138	岩蔵寺遺跡	散布地	縄文晩、古代	05196	西屋敷遺跡	集落・散布地	縄文、弥生、飛鳥、奈良、平安、中世、近世
05139	小野入遺跡	散布地	縄文早・中～晩、古代	05197	戸ノ内遺跡	集落・散布地	縄文、弥生、古墳、奈良、平安、中世、近世
05141	西脇古墳	円墳	古墳	05198	車地藏遺跡	集落・散布地	古代、中世、近世
05142	清上遺跡	散布地	古代	05199	三本槻 B 遺跡	散布地	縄文、平安
05143	上葉の木沢遺跡	散布地	縄文、古墳前、古代、近世	05200	稲荷林遺跡	散布地	縄文早、古墳、奈良、平安
05144	中葉の木沢遺跡	散布地	縄文、弥生、古代	05201	沢入 D 遺跡	散布地	縄文早・晩
05145	円田入 C 遺跡	散布地	縄文	05202	観音堂山遺跡	集落・散布地	縄文後、平安
05146	円田入 B 遺跡	散布地	縄文早・中・後	05203	大久保西遺跡	散布地	古墳、奈良、平安
05148	根無藤遺跡	散布地	縄文早・晩、古代	05204	堀の内 B 遺跡	散布地	弥生、古墳
05149	入山遺跡	散布地	縄文前、弥生、古代	05205	八幡山東遺跡	散布地	弥生、古代
05150	官林遺跡	散布地	縄文早	05206	堤遺跡	散布地	縄文、弥生、古墳、古代、中世
05151	手代木 B 遺跡	散布地	縄文早・後、古代	05207	東山 B 遺跡	散布地	平安
05152	土橋遺跡	散布地	縄文後、弥生	05208	願行寺廃寺跡	寺院・散布地	縄文早・中・後、弥生中、中世、近世
05153	上曲木 C 遺跡	散布地	縄文早・中	05209	高山遺跡	散布地	縄文、近世
05154	上曲木 E 遺跡	散布地	縄文前・中	02092	井戸遺跡	散布地	縄文前・中、古代
05155	曲木畑遺跡	散布地	縄文	02429	炭の平遺跡	散布地	縄文早・前
05156	上曲木 D 遺跡	散布地	縄文前・中	07015	北割山遺跡	散布地	縄文、弥生
05157	上曲木 B 遺跡	散布地	縄文早～中、古代	07101	傾城山遺跡	散布地	縄文
05158	高木 B 遺跡	散布地	縄文	07149	古峯神社古墳	前方後円墳・散布地	古墳
05159	上曲木 A 遺跡	散布地	縄文早、弥生、古代	07180	夕向原 1 号墳	前方後円墳・散布地	弥生、古墳
05160	西浦 B 遺跡	集落・散布地	縄文中～晩、弥生、平安、中世、近世	07181	夕向原 2 号墳	円墳	古墳
05161	寺門前遺跡	散布地	縄文中・後				
05162	西浦 C 遺跡	散布地	縄文前～後、弥生、奈良、平安				
05163	白九頭竜古墳	古墳	古墳				
05164	沢北 B 遺跡	散布地	縄文後				
05165	北原尾遺跡	散布地	縄文早				

(合計 203 か所)

※番号は宮城県遺跡地名表の登録番号である。上二桁は市町村番号を表し、05：蔵王町、02：白石市、07：村田町の登録分である。白石市と村田町の登録分については、本表と第 5 図とともに蔵王町の行政界にまたがるものを記載した。
※平成 29 年度に現場対応した遺跡（第 2 表）は番号・遺跡名を太字で表記した。

第2章 平成29年度の調査概要

第1節 埋蔵文化財保護調整

蔵王町内における周知の埋蔵文化財包蔵地(遺跡)は現在203か所を数え、分布調査等による新規発見遺跡も随時追加されている。これらを文化財保護法に基づき適切に保護するため、遺跡地図等によって周知に努め、各種開発を行なう事業者に対して事前の確認を求めている(註1)。各種開発事業計画と埋蔵文化財との関わりが予想される場合には、宮城県教育委員会と連携して埋蔵文化財保存協議を実施している。協議においては、開発予定地の地下の遺構の有無が不明な場合には「確認調査」(註2)、遺構面に影響を与えない工事や施工範囲が狭小な場合、遺構が存在する可能性が低い場合には「工事立会」(註3)を行ない、過去に発掘調査済みあるいは遺構が存在しないことを確認済みの場合には「慎重工事」(註4)としている。

さらに、確認調査で遺構の分布が確認された場合には、必要に応じて事業者には計画の変更等を求め、遺跡の現状保存に努めている。また、事業主旨および緊急性などから遺跡の破壊が避けられない場合には、事前に「発掘調査」(註5)を行なって遺跡の記録保存を図ることとしている。

平成29年度の文化財保護法に基づく発掘届等(註6)の受理件数は19件で、文化財保護法93条に基づく届出が15件、法94条に基づく通知が4件である。事業内容別では個人住宅7件、電気・ガス・水道等7件、その他開発2件、その他建物1件、土砂採取1件、河川1件で、回答内容別では発掘調査9件、工事立会7件、慎重工事3件である。昨年度の状況と比較すると、発掘届等の件数は5件の増加となっている。事業内容別の傾向などに大きな変化は見られなかった。

第2節 埋蔵文化財の調査等

保存協議にかかる現場対応 平成29年度の埋蔵文化財保存協議で現場対応を行なったのは22遺跡23件(第2表、過年度分の発掘届等に基づくものを含む)であった。対応の内訳は、確認調査12件、工事立会10件、慎重工事1件である。このうち確認調査5件で遺構を確認した。

天王遺跡(事務所・倉庫建築予定地)の確認調査では、層厚1.5m以上の盛土層を確認した。崩落の危険性が高いと判断されたため、今回の調査では遺構の有無を確認できなかった。工事による掘削深度はこれより浅く、遺構面に直接的な影響は及ばないことから現状保存とした。

上原遺跡(砂利採取予定地)の確認調査では、柱穴・溝跡・旧河道を確認した。これらの一部を掘削したところ、溝跡から近世磁器、旧河道から縄文土器・石製品(石皿)が出土した。遺構の特徴や出土遺物から確認した遺構は近世以

註1. 開発予定地内に未周知の埋蔵文化財の所在が予想される場合には、「分布調査」および「試掘調査」を実施して把握に努めることとしている。分布調査は、現地踏査によって遺物の散布状況や地形の特徴等を把握する表面調査である。試掘調査は、埋蔵文化財の有無を確認するためにトレンチを掘削して行なう部分的な発掘調査である。

註2. 周知の埋蔵文化財包蔵地内において遺構の有無や分布状況などを把握する目的でトレンチを掘削して行なう部分的な発掘調査。対象地の微地形を考慮しながら遺構の分布が予想される地点を中心に任意でトレンチを配置する。これにより遺構・遺物の包含深度や面積あたりの密度、包含環境を把握するとともに遺構の規模や内容、性格の概要を把握し、文化財保存協議の材料とする。また、事前調査を実施する場合の調査方法や期間、費用等の積算根拠とする。

註3. 専門知識を有する埋蔵文化財担当職員が、工事の実施中に立ち会うこと。工事が埋蔵文化財を損壊しない範囲内で計画されているが、現地で状況を確認する必要がある場合、又は対象地が狭小で通常の発掘調査を実施できない場合に行なう。

註4. 事業者が慎重に工事を実施すること。工事が埋蔵文化財を損壊しない範囲内で計画され、発掘調査や工事立会の必要ないと判断された場合に行なう。

註5. 工事の実施前に文化財保護法に基づく記録保存の措置を講ずるために行なう本発掘調査。工事によって埋蔵文化財が直接的に破壊される場合のほか、工事が影響を及ぼしたり、恒久的な工作物の設置によって以後の調

第2章 平成29年度の調査概要

降のものと判断されたので、保存の対象としなかった。

湯坂山B遺跡（鳥インフルエンザ緊急対策用地造成予定地）の確認調査では、台地南側で層厚80～170cmの黒ボク土層で埋積される埋没谷地形の谷頭部を確認し、黒ボク土層中から縄文土器が出土した。遺構は確認されなかった。

東浦遺跡（永野児童館駐車場整備予定地）の確認調査では、土坑・柱穴の分布を確認した。土坑は直径約100cmで、一部を掘削したところフラスコ状を呈することから貯蔵穴と考えられた。遺物は出土しなかった。工事による新た

査等が困難になると判断された場合に行なう。

註6. 調査のための発掘に関する届出（第92条）、土木工事等のための発掘に関する届出（第93条）、国の機関または地方公共団体等が行う発掘に関する通知（第94条）がある。

第2-1表 平成29年度の埋蔵文化財保存協議にかかる確認調査・工事立会・慎重工事一覧（協議内容）

番号	遺跡名	遺跡番号	条文	対応内容	協議箇所	調査原因
1	稲荷林遺跡	05200	法93条	確認調査	大字小村崎字稲荷林 47番, 48番1	個人住宅建築
2	土ヶ市遺跡	05082	法93条	工事立会	大字円田字見継 1-1, 1-3	電柱等新設
3	上野遺跡	05016	法93条	工事立会	大字円田字上野 29-51	電柱等新設
4	天王遺跡	05007	法93条	確認調査	塩沢字天王 16-6, 95-1 地内	事務所・倉庫建築
5	宮城館跡	05024	法93条	慎重工事	宮字台 46-23 地先, 同 51 地内	電柱等移設
6	立目場遺跡	05013	法93条	工事立会	大字平沢字谷地田 23番 10	個人住宅建築
7	前戸内遺跡 稲荷林遺跡	05108 05200	法94条	工事立会	大字小村崎 地内	電話柱等移設
8	上原遺跡	05131	法93条	確認調査	大字曲竹字桜所 13番 1, 15番 3	砂利採取
9	湯坂山遺跡	05070	法93条	確認調査	大字円田字土橋 35番地 10	個人住宅建築
10	後原遺跡	05110	法93条	工事立会	大字小村崎字後原 7番, 8番, 9番 1 地内	個人住宅建築
11	根方A遺跡	05076	法93条	確認調査	宮字持長地 104-1 地内	店舗建築・用地造成
12	中沢B遺跡	05171	法93条	工事立会	大字平沢字中沢 105-1, 105-3	個人住宅建築
13	寺門前遺跡	05161	法93条	工事立会	大字円田字西浦北 66番 2	個人住宅建築
14	円田入B遺跡	05146	法94条	工事立会	大字円田字根無藤他 地内	水道管布設
15	湯坂山B遺跡	05023	法94条	確認調査	大字円田字湯坂山 45-2	鳥インフルエンザ緊急対策用地整備
16	東浦遺跡	05062	法94条	確認調査	大字円田字東上 2-2	永野児童館駐車場整備
17	平沢遺跡	05104	法94条	工事立会	大字平沢字台屋敷 地内	町道橋架替
18	諏訪館前遺跡	05014	法93条	確認調査	大字平沢字上ノ台 11-2	個人住宅建築
19	東浦遺跡	05062	法93条	工事立会	大字円田字東上 32番 2 地内	個人住宅建築
20	上葉の木沢遺跡	05143	法93条	確認調査	大字小村崎字上葉ノ木沢 40番 1, 41番 2	個人住宅建築
21	上葉の木沢遺跡	05143	法93条	確認調査	大字小村崎字上葉ノ木沢 46番 13	太陽光発電設備設置
22	丈六遺跡	05103	法93条	確認調査	大字平沢字山ノ入 26-2 地内	個人住宅建築
23	上原田遺跡	05004	法93条	確認調査	宮字上原田東 79-20	太陽光発電設備設置

※ 本表は対応順に記載した。番号は第5図の緑色丸数字に対応する。第3章で報告する調査は番号と遺跡名を太字で表記した。

※ 条文欄は文化財保護法第93条に基づく発掘の届出、同94条に基づく発掘の通知による事務処理を示す。

※ 調査原因欄は本表で表記を統一しており、事業者が協議書等の文書に記載した事業名とは一致しない場合がある。

な掘削はなく、遺構面に直接的な影響は及ばないことから現状保存とした。

根方A遺跡（店舗建築・用地造成予定地）では、事業者から地下の遺構等の状況を踏まえて土地利用を検討したい旨の意向が示されていたことから、敷地全体を対象として確認調査を実施した。この結果、敷地北部を中心に竪穴住居跡・敷石遺構・土坑・遺物包含層など多数の遺構を確認し、縄文土器・石器・ロクロ土師器・赤焼土器・須恵器などが出土した。縄文時代中期後葉および平安時代中頃の集落跡と考えられることから、事業者に対して確認した遺構の保



根方A遺跡の確認調査

第2-2表 平成29年度の埋蔵文化財保存協議にかかる確認調査・工事立会・慎重工事一覧（調査成果）

番号	遺跡名	調査期間	対象面積	調査面積	遺構	主な調査成果 (立地/遺構確認面/遺構/遺物)
1	稲荷林遺跡	平成29年4月6日	114㎡	33㎡	なし	丘陵東斜面/漸移層/削平面(ローム層以下)
2	土ヶ市遺跡	平成29年4月18日	3㎡	-	なし	丘陵南東斜面/砂質ローム層・白色粘土層/陶器
3	上野遺跡	平成29年4月20日	1㎡	-	なし	段丘平坦面/ローム層
4	天王遺跡	平成29年5月29日	425㎡	4㎡	-	丘陵東斜面/盛土層(層厚1.5m以上)
5	宮城館跡	(平成29年6月7日)	4㎡	-	-	段丘平坦面/土砂採取による地形改変部
6	立目場遺跡	平成29年6月24日	59㎡	-	なし	丘陵西斜面/削平面(ローム層)/表採:土師器
7	前戸内遺跡 稲荷林遺跡	平成29年6月26日	3㎡	-	なし	段丘東斜面/砂質ローム層・砂質粘土層
8	上原遺跡	平成29年6月26・27日	8,653㎡	223㎡	あり	段丘平坦面・自然堤防/砂質ローム層/溝1・柱穴4・旧河道/縄文土器・近世磁器・石製品(石皿)
9	湯坂山遺跡	平成29年6月27日	504㎡	67㎡	なし	段丘平坦面/ローム層/地割れ痕跡/表採:土器・石器(石匙・剥片)
10	後原遺跡	平成29年4月24日,5月8・29日, 8月8日	1,148㎡	-	なし	段丘南斜面/ローム層
11	根方A遺跡	平成29年7月27日~8月3・28日	4,600㎡	552㎡	あり	段丘平坦面/漸移層/住居14・敷石1・落とし穴2・土坑14・溝3・柱穴14・包含層6/縄文土器(大木9・10)・石器(石鏃・石匙・石錐・剥片)・礫石器・ロクロ土師器・赤焼土器・須恵器
12	中沢B遺跡	平成29年9月4日	189㎡	-	なし	丘陵尾根部/削平面(ローム層)/表採:土師器
13	寺門前遺跡	平成29年8月21日,9月11日	359㎡	-	-	段丘平坦面/表土層
14	円田入B遺跡	平成29年9月5・7・8・11日	387㎡	-	なし	段丘平坦面/ローム層
15	湯坂山B遺跡	平成29年10月30日	217㎡	40㎡	なし	埋没谷/漸移層/縄文土器
16	東浦遺跡	平成29年10月31日	192㎡	19㎡	あり	段丘平坦面/漸移層/土坑3・柱穴7
17	平沢遺跡	平成29年11月6日	317㎡	-	なし	河道内/既存石積裏込部
18	諏訪館前遺跡	平成30年2月7日	500㎡	82㎡	あり	段丘平坦面/漸移層~ローム層/落とし穴1・柱穴2
19	東浦遺跡	平成30年1月22日,2月19日	397㎡	-	なし	段丘平坦面/漸移層~ローム層
20	上葉の木沢遺跡	平成30年3月2日	540㎡	11㎡	なし	丘陵麓部/黄褐色砂礫層・湿地性黒色シルト
21	上葉の木沢遺跡	平成30年3月2日	3,803㎡	54㎡	なし	丘陵南斜面/漸移層/削平面(ローム層以下)
22	丈六遺跡	平成30年3月6日	348㎡	27㎡	なし	段丘斜面/漸移層
23	上原田遺跡	平成30年3月15日	1,886㎡	232㎡	あり	段丘斜面/ローム層(深掘区:川崎スコリア層下位の明褐色ローム層)/落とし穴1/表採:土器・石器(剥片)

※ 慎重工事の場合は調査期間欄に発掘届等の回答日を括弧付きで記載した。

※ 工事およびトレンチ掘削の深度が地山面に達せず遺構の有無が確認できなかった場合、遺構欄は「-」とした。

第2章 平成29年度の調査概要

存を要請したところ、遺構が分布しない敷地南部に建物・駐車場を配置し、敷地中央～北部を緑地および未舗装の駐車場として地下の遺構群を保全する方針が示された。なお、最終的な工事計画を添付した発掘届は平成30年度に提出され、用地造成工事で工事立会を実施している。

諏訪館前遺跡（個人住宅建築予定地）の確認調査では、土坑・柱穴の分布を確認した。土坑は幅40cm、長さ160cm以上の溝状を呈し、一部を掘削したところ横断面形が深さ85cm以上のV字状を呈することから狩猟用の落とし穴と考えられた。遺物は出土しなかった。これ以外に遺構は確認されなかったことから、記録を作成して調査を終了した。

上原田遺跡（太陽光発電設備設置予定地）の確認調査では、ローム層中からの遺物の出土も想定されたことから、各トレンチ内に適宜深掘区を設け、蔵王川崎スコリア層（約3万年前）下位の明黄褐色ローム層まで掘削を行なった。この結果、狩猟用の落とし穴と考えられる土坑1基を確認した。これ以外に遺構・遺物は確認されなかったことから、記録を作成して調査を終了した。

分布調査 上原田遺跡に関して、関係者からの情報提供によって昭和30年代に行なわれた東北大学による調査地点の一部が遺跡範囲の外側に位置すること、過去に遺物が採集された地点が現状の遺跡範囲の外側に及んでいることが判明した。付近は小高い平坦地が広がり、今後も比較的高い確率で開発等が予想される地区であることから、平成30年3月に東北歴史博物館の協力を得て分布調査を実施した。この結果、南北に伸びる残丘状の段丘面の広範囲に遺物散布が確認されたことから、上原田遺跡および隣接する下原田遺跡・逆川遺跡の範囲を変更し、平成30年4月に宮城県教育庁文化財課へ通知した。

新規登録 埋蔵文化財包蔵地の新規登録は1件である（註7）。なお、高木川の河川改修工事に伴う遺物採集地点を平成30年度に新規登録している（註8）。

文化財パトロール 宮城県教育委員会の文化財管理指導事業による文化財パトロールでは、重要文化財1件、埋蔵文化財包蔵地5件（註9）を対象とした。山間部に立地する遺跡では耕作放棄地の拡大や山林の荒廃が進行しており、位置確認や現状把握に困難を伴う場合が多い。一方、近年増加している太陽光発電事業に伴う開発の対象地は遺跡の立地する地形との親和性が高く、荒廃農地・山林での現状確認の必要性は急速に高まっている状況にある。

遺跡地図等の改訂 平成29年7月に宮城県教育庁文化財課から県内の遺跡および指定文化財のGISデータ作成作業に伴う内容確認の依頼があり、遺跡地図および遺跡地名表の確認作業を進めた。遺跡地図については、既往の遺跡調査カードおよび発掘調査報告書との対照作業に加えて適宜現地踏査を行ない、軽微なものを含めて50遺跡の範囲を修正した（註10）。遺跡地名表については、所在地に関する情報に欠落が多く見られたほか、遺跡の内容に関する情報に既往の調査成果が十分に反映されていなかったことから、大幅な改定を行った（註11）。これらの内容確認の結果については平成30年10月に宮城県教育庁文化財課へ報告した。更新後のGISデータは「宮城県遺跡地図情報」および「宮城県遺跡地名表」としてWEB公開されている（註12）。



上原田遺跡の確認調査

註7. 願行寺廃寺跡（05208, 寺院・散布地, 縄文・弥生・中世・近世）

註8. 高山遺跡（05209, 散布地, 縄文・近世）

註9. 上平遺跡（05002）、上野遺跡（05016）、高木遺跡（05066）、手代木遺跡（05095）、青竹遺跡（05118）

註10. 主な範囲変更は下原田遺跡・天王古墳群・東山遺跡・赤鬼上遺跡・大橋遺跡・兵衛館跡・平沢館跡・青竹遺跡・欠山遺跡・東山B遺跡など。

註11. 遺跡地名表は遺跡番号・遺跡名・よみがな・所在地・立地・種別・時代・地目・出土品・特例の各欄で構成されている。所在地・地目の各欄については代表地点の記載に留まるものが多かったが、地籍図を参照して遺跡範囲に含まれる全ての小字名と地目を記載するよう加除訂正した。これにより、小字名の検索で埋蔵文化財の大まかな所在確認を可能とした。また、種別・時代・出土品の各欄については既往の遺跡調査カードおよび発掘調査報告書を参照して加除訂正した。

註12. 「宮城県遺跡地図情報」（web版遺跡地図）<https://www.pref.miyagi.jp/site/maizou/bunkazaimap.html>
「宮城県遺跡地名表」<https://www.pref.miyagi.jp/site/maizou/miyagiisekitimeihyou.html>

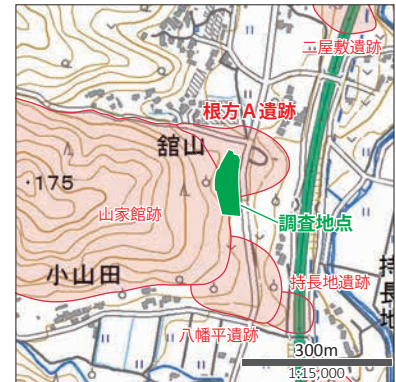
第3章 調査の成果

第1節 確認調査

1. 根方A遺跡

調査要項（第2表11）

遺跡名	根方A遺跡（遺跡登録番号05076）
調査原因	店舗建築・用地造成計画
調査箇所	蔵王町宮字持長地104-1地内
調査期間	平成29年7月27日～8月3・28日
対象面積	4,600㎡
調査面積	552㎡
調査主体	蔵王町教育委員会
調査員	鈴木雅



第6図 調査地点位置図

遺跡の概要 松川右岸の低位段丘面上に立地し、縄文時代の散布地として登録されている。周辺には本遺跡と同じ低位段丘面上に二屋敷遺跡・八幡平遺跡・持長地遺跡、西側の丘陵部に山家館跡が立地し、二屋敷遺跡では縄文時代中期後葉～後期前葉の集落跡、持長地遺跡では中世の屋敷跡を確認している（註1）。本遺跡の範囲は東西約220m、南北約160mで、東方向に約10%の勾配を持つ緩斜面となっている。本遺跡では、これまでに発掘調査は行なわれていない。

調査の成果 調査原因の開発計画は敷地4,600㎡のうち2,400㎡程度を利用して店舗・駐車場・進入路の整備を行なうものであるが、事業者から敷地内の地下の遺構等の状況を踏まえて工事計画を立案したい旨の意向が示されていたことから、敷地全体を調査対象とした。敷地内の遺構の分布状況を把握するため、トレンチ17か所を設定して調査を実施した（第7図）。基本層序はⅠ層：現代の耕作土、Ⅱ層：現代の盛土、Ⅲ層：旧耕作土、Ⅳ層：黒ボク土、Ⅴ層：漸移層、Ⅵ層：黄褐色ローム層、Ⅶ層：礫混じりローム層となる。敷地中央部で土層の堆積が厚く、Ⅱ層は50cm、Ⅲ層は65cm、Ⅳ層は50cmの最大層厚を確認した。土層の堆積状況と周囲の地形から、敷地中央部を横断して東へ開く埋没谷地形の上面を

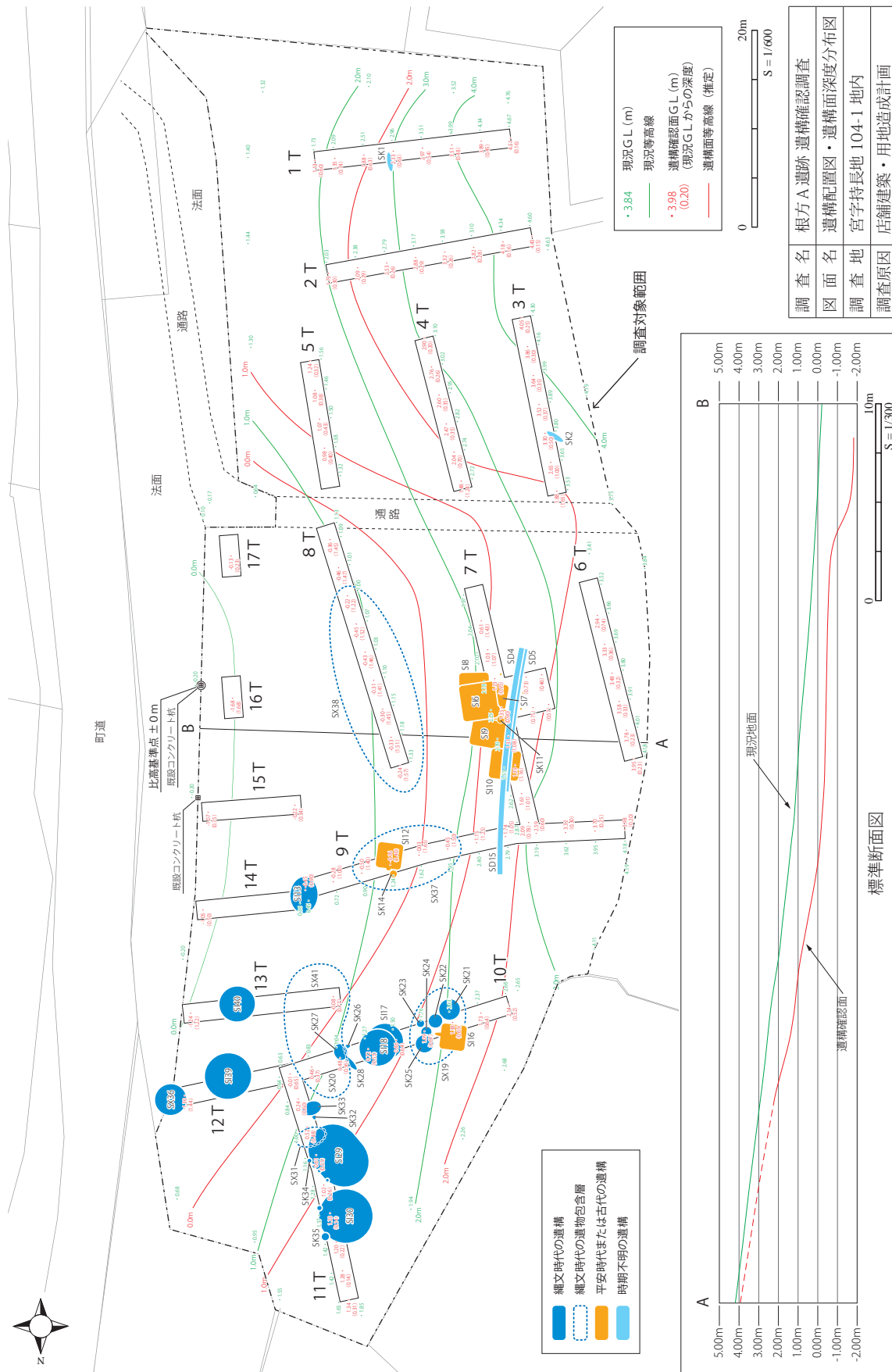
註1. 二屋敷遺跡は縄文時代の集落および平安時代、中世の散布地、八幡平遺跡は縄文・古代の散布地、持長地遺跡は中世の集落および旧石器・縄文・弥生・古墳時代、古代の散布地、山家館跡は中世の城館として登録されている。持長地遺跡では漸移層下部から旧石器（珪質頁岩製ナイフ形石器）が出土している。
宮城県教育委員会1984『東北自動車道遺跡調査報告書Ⅸ（二屋敷遺跡）』宮城県文化財調査報告書99
宮城県教育委員会1980「持長地遺跡」『東北自動車道遺跡調査報告書Ⅳ』宮城県文化財調査報告書80



写真1 遺跡近景（東から）



写真2 調査前現況（北から）



第7図 トレンチ配置図・模式遺構配置図



第8図 遺構配置図

第3章 調査の成果

盛土整地していることが判明した。また、敷地南部および北端部ではI層の直下がVI・VII層の削平面となっていた。遺構確認面はV層中位である。

調査の結果、竪穴住居跡 14 軒、敷石遺構 1 基、土坑 16 基、溝跡 3 条、柱穴 14 基、遺物包含層 6 か所など多数の遺構を確認した（第8図）。このうち、帰属時期が明らかなものには縄文時代と平安時代のものがある。

縄文時代の遺構は竪穴住居跡 7 軒（SI13・17・18・29・30・39・40）、敷石遺構 1 基（SX36）、遺物包含層 6 か所（SX19・20・31・37・38・40）などがあり、敷地北部の8～13トレンチを中心に分布する。SI29竪穴住居跡は残存が良好でないが、石組みの一部を確認した。SI30竪穴住居跡は平面形が直径5.2mの円形と推定され、複式炉の一部と考えられる石組みを確認した。敷石遺構は長軸15～45cm程度の河原石の上面を平坦に揃えて敷き並べたもので、浅い掘方を持つ。敷石の一部に礫石器（磨石）を用いる。また、10・11トレンチで確認した土坑の多くが縄文時代のものと考えられる。遺物はこれらの各遺構と遺物包含層の確認面などから縄文土器、石器（石鏃・石匙・削器・剥片・碎片）が出土した（第9～12図）。縄文土器は主に縄文時代中期後葉（大木9～10式期）頃のものと考えられる。

平安時代の遺構は竪穴住居跡 3 軒（SI6・12・16）などがあり、敷地中央部の7・9・10トレンチを中心に分布する。SI6・12・16竪穴住居跡は平面形が隅丸方形を呈し、SI6・12竪穴住居跡は石組みカマドを付設する。また、7トレンチ中央部でSI6竪穴住居跡と重複して確認され、平面形が隅丸方形を呈する竪穴住居跡 4 軒（SI7～10）も古代のものと考えられ、方位が近似することからSI6竪穴住

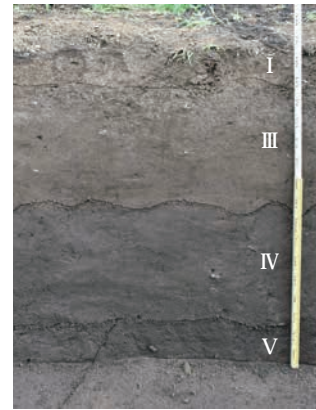


写真3 基本層序
(9トレンチ東部南壁)

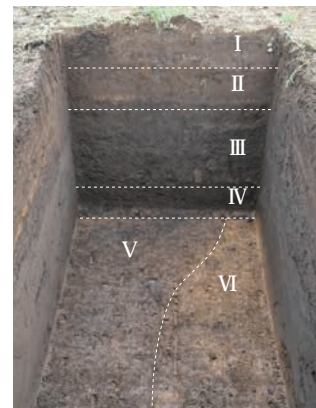


写真4 基本層序
(16トレンチ南壁)



写真5 トレンチ掘削状況 (3トレンチ付近, 西から)



写真6 トレンチ掘削状況 (5トレンチ付近, 北から)



写真7 トレンチ掘削状況 (7トレンチ付近, 北から)



写真8 トレンチ掘削状況 (11トレンチ付近, 北から)

居跡などと同様に平安時代のものと考えられる。これらの各遺構の確認面などからロクロ土師器坏・甕、赤焼土器坏、須恵器坏・甕が出土した（第13図）。

このほか、1・3トレンチで確認した土坑2基（SK1・2）は平面形が長軸140cm以上、短軸40cm以上の溝状を呈する。SK1の一部を掘削したところ、横断面形は深さ50cmのV字状を呈することから、狩猟用の落とし穴と考えられる。遺物は出土しなかった。また、7・9トレンチで確認した溝跡3条（SD4・5・15）は幅50～90cmで、等高線に沿って南北方向に直線的に伸びており、二次期に変遷する。古代の竪穴住居跡より新しく、山家館跡に関連した中世の遺構の可能性が考えられる。

以上の調査成果を踏まえ、縄文時代中期後葉および平安時代中頃の集落跡と考えられる敷地中央～北部の遺構群の保存を事業者に要請したところ、遺構が分布しない敷地南部に建物・駐車場を配置し、敷地中央～北部を緑地および未舗装の駐車場とする方針が示され、遺構の保存が図られることになった。



写真9 7トレンチ作業風景



写真10 1トレンチ（東から）



写真11 3トレンチ（北から）



写真12 4トレンチ（北から）



写真13 6トレンチ（北から）



写真14 7トレンチ（南から）



写真15 7トレンチ（北から）



写真16 7トレンチ中央部 (南から)



写真17 8トレンチ (北から)



写真18 9トレンチ (東から)



写真19 10トレンチ (西から)



写真20 10トレンチ (東から)



写真21 11トレンチ (南から)



写真22 11トレンチ (北から)



写真23 12トレンチ (東から)



写真24 13トレンチ (西から)



写真 25 SI6・7 竪穴住居跡 (7トレンチ, 西から)



写真 26 SI6 竪穴住居跡カマド部 (7トレンチ, 東から)



写真 27 SI12 竪穴住居跡 (9トレンチ, 南から)



写真 28 SI12 竪穴住居跡カマド部 (9トレンチ, 南から)



写真 29 SI16 竪穴住居跡 (10トレンチ, 南から)



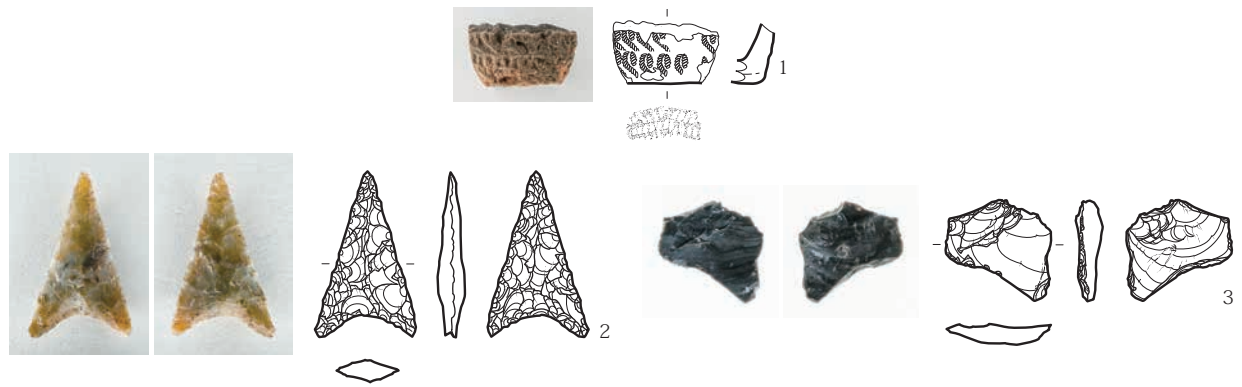
写真 30 SI29 竪穴住居跡 (11トレンチ, 東から)



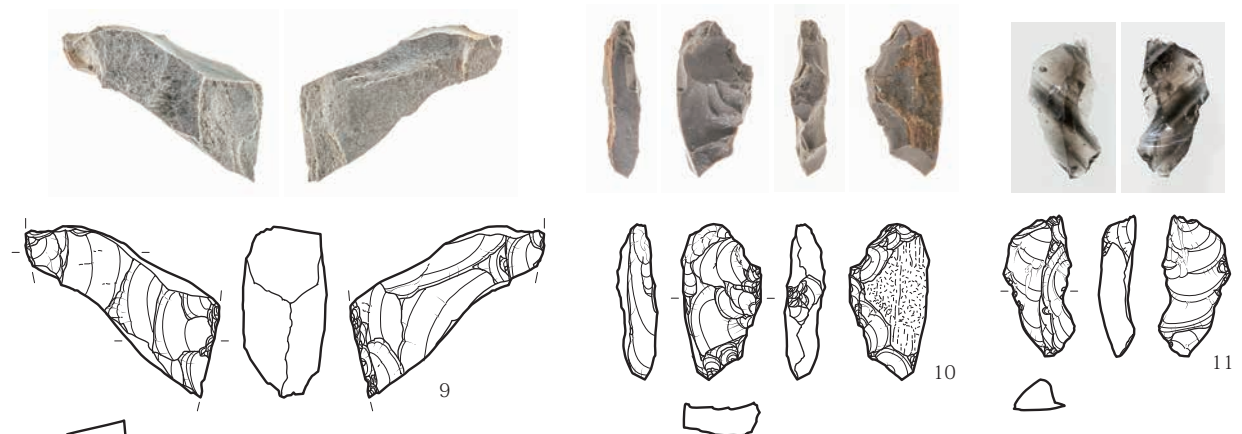
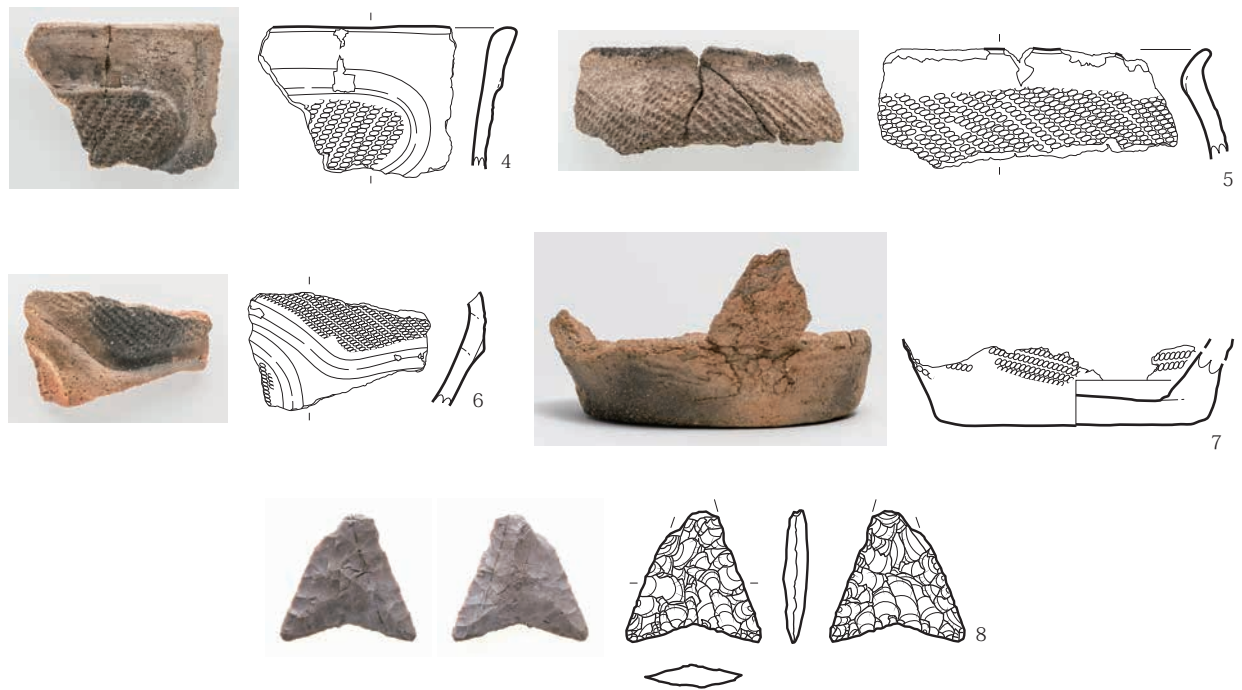
写真 31 SI30 竪穴住居跡 (11トレンチ, 東から)



写真 32 SX36 敷石遺構 (12トレンチ, 東から)



SI29 竪穴住居跡



SI30 竪穴住居跡



第9図 根方A遺跡出土遺物(1)



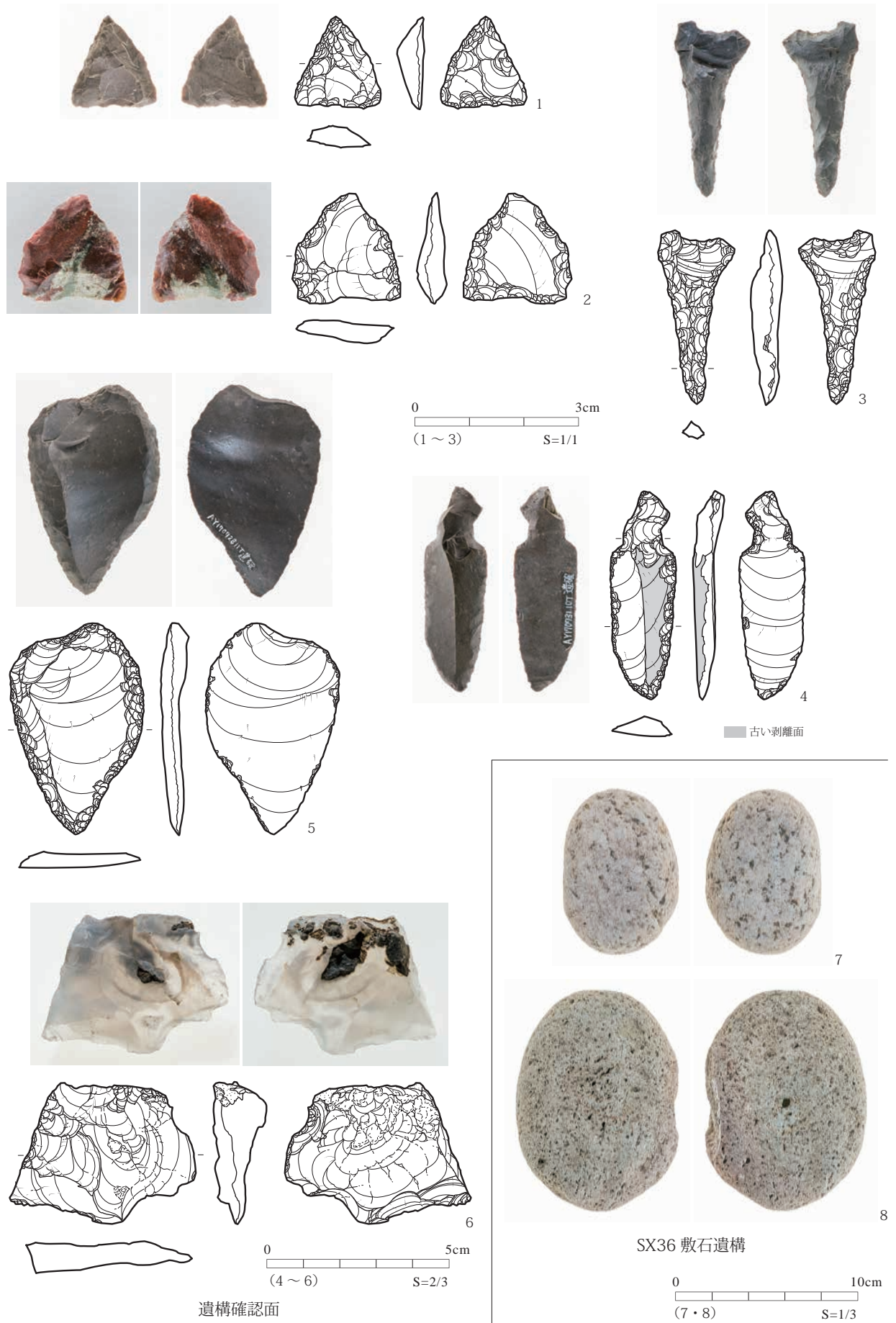
遺構確認面ほか

第10図 根方A遺跡 出土遺物 (2)

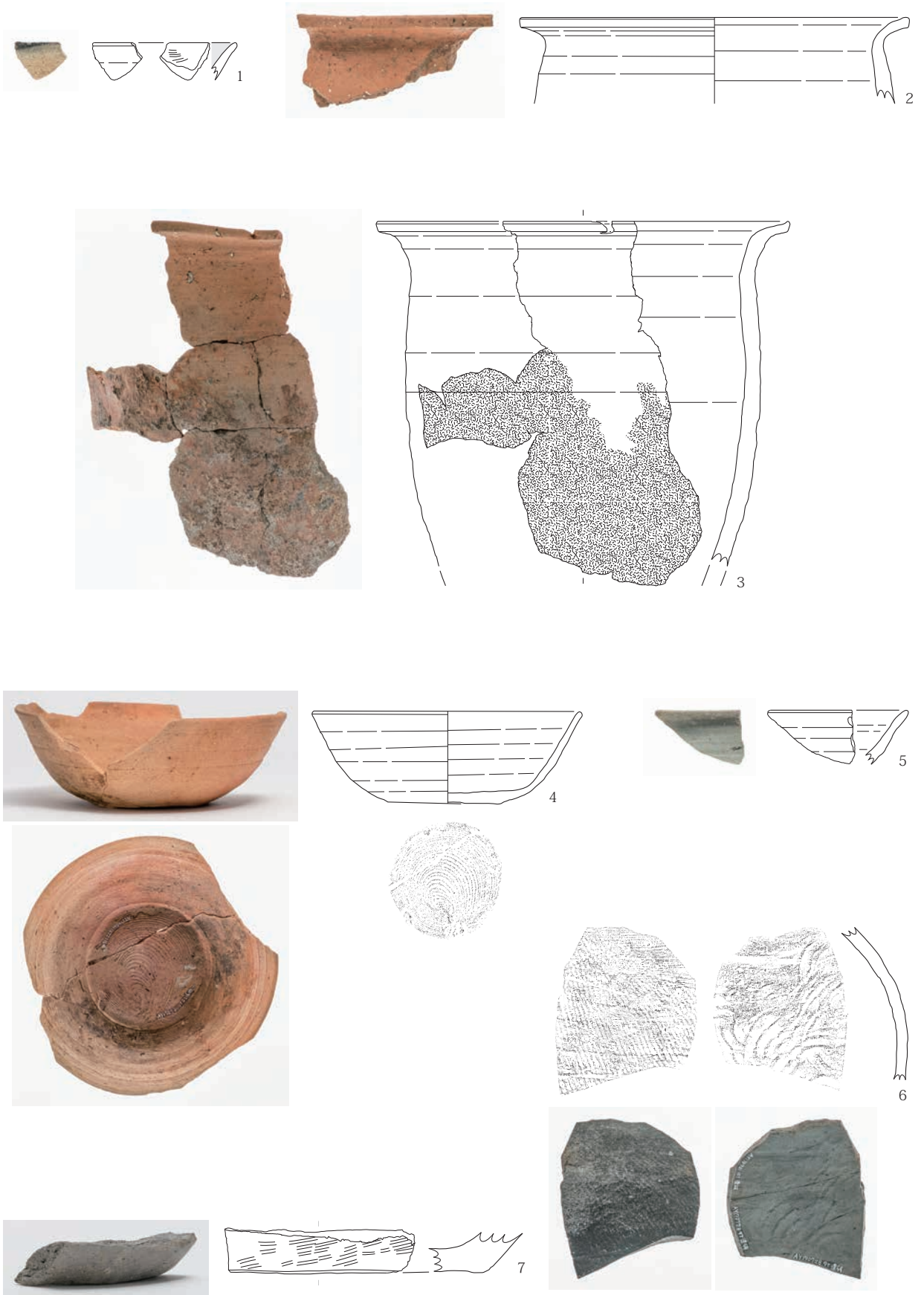


遺構確認面ほか

第11図 根方A遺跡出土遺物(3)



第12図 根方A遺跡 出土遺物 (4)



0 10cm
S=1/3

竪穴住居跡・遺構確認面
第13図 根方A遺跡出土遺物(5)

第3-1表 根方A遺跡 出土遺物観察表(1)

(第9図)

No	調査区	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	残存部位	残存率	登録番号			
1	11T	SI29	確認面	縄文土器	深鉢	胴部～底部：重層末端ループ文(RL・前々段多条) 最大高(2.3cm) 胎土：1mm程度の石英・長石を含む、繊維混入	胴部～底部	一部	AY17-101			
No	調査区	遺構名	層位	器種	石材	特徴	法量(mm・g)				残存率	登録番号
							長	幅	厚	重		
2	11T	SI29	確認面	石鏃	チャート	両面のほぼ全体に面的調整の後、細かな剥離による入念な調整を加える。調整は規則的・連続的である。全体形は均整の取れた二等辺三角形を呈する。凹基無茎で基部の扱りは弧状を呈する。	22.0	13.5	3.9	0.6	完形	AY17-096
3	11T	SI29	確認面	微細剥離ある剥片	黒曜石	剥離面を打面とする小型の不定形剥片を素材とする。左右両側縁に使用痕と思われる連続的な微細剥離が見られる。	20.0	21.0	5.4	1.6	完形	AY17-095
No	調査区	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	残存部位	残存率	登録番号			
4	11T	SI30	確認面	縄文土器	深鉢	胴部：区画隆線文、縄文RL 胎土：1mm程度の石英・長石を含む、1mm以下の黒色岩片を少量含む、1mm程度の雲母を微量含む	口縁部～胴部	一部	AY17-102			
5	11T	SI30	確認面	縄文土器	深鉢	胴部：縄文LR 胎土：1mm程度の石英・長石を少量含む、1～2mm程度の雲母を微量含む	口縁部～胴部	一部	AY17-103			
6	11T	SI30	確認面	縄文土器	深鉢	胴部：区画隆線文、縄文LR 胎土：1mm以下の石英・長石を多量含む、1mm以下の黒色岩片を微量含む	胴部	一部	AY17-104			
7	11T	SI30	堆積土	縄文土器	深鉢	胴部：縄文LR 底径11.0cm、最大高(7.1cm) 胎土：1mm程度の石英・長石を多量含む、1mm以下の黒色岩片を多量含む	胴部～底部	一部	AY17-117			
No	調査区	遺構名	層位	器種	石材	特徴	法量(mm・g)				残存率	登録番号
							長	幅	厚	重		
8	11T	SI30	確認面	石鏃	珪質頁岩	両面のほぼ全体に面的調整の後、細かな剥離による入念な調整を加える。調整は規則的・連続的である。全体形は均整の取れた二等辺三角形を呈する。凹基無茎で基部の扱りは「く」字状を呈する。先端部欠損。	17.5	18.0	3.5	0.7	完形	AY17-110
9	11T	SI30	確認面	二次加工ある剥片	珪質頁岩	両面のほぼ全体に面的調整の後、側縁に細かな剥離による調整を加える。裏面の一部に素材腹面を残す。上下両端部折損。	34.0	38.5	17.0	12.6	一部	AY17-109
10	11T	SI30	確認面	二次加工ある剥片	珪質頁岩	裏面に捩理面を残す剥片を素材とする。右側縁の裏面側を中心に寸詰まりの剥離で調整を加える。左側縁は上部からの打撃による剥離面で、下端部に微細な剥離が観察できることから両端打撃の可能性がある。	31.0	16.0	8.1	3.5	完形	AY17-111
11	11T	SI30	確認面	微細剥離ある剥片	黒曜石	やや縦長の小剥片を素材とする。素材剥離時に打面部が砕けている。左側縁中央部に表裏とも不連続な微細剥離が見られる。	28.0	14.5	7.6	1.8	完形	AY17-112

(第10図)

No	調査区	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	残存部位	残存率	登録番号
1	9T	-	遺構確認面	縄文土器	深鉢	胴部：円形隆線文、重層末端ループ文(RL・前々段多条) 胎土：1mm以下の石英・長石を含む、1mm程度の白色岩片を少量含む、繊維混入	胴部	一部	AY17-033
2	10T	-	遺構確認面	縄文土器	深鉢	口縁部：渦巻状隆線文、縄文LR、内面口縁部：突起か(剥離) 胎土：1～2mm程度の石英・長石を含む、1mm以下の黒色岩片を含む、1mm程度の雲母を少量含む	口縁部	一部	AY17-066
3	9T	-	遺構確認面	縄文土器	深鉢	口縁部：弧状区画・横位隆線文 内外面：黒色付着物 胎土：1mm以下の石英・長石・海綿骨針を均一に含む、1mm以下の雲母を少量含む	口縁部	一部	AY17-012
4	9T	-	排土	縄文土器	浅鉢	口縁部：区画沈線文、縄文LR 胎土：1mm以下の黒色岩片を含む、1mm程度の石英・長石を含む、1mm程度の赤色岩片を微量含む、1mm以下の雲母を微量含む	口縁部	一部	AY17-043
5	11T	-	遺構確認面	縄文土器	深鉢	胴部：区画沈線文、縄文LR 胎土：1mm程度の石英・長石を含む、mm以下の黒色・赤色岩片を少量含む、1mm程度の雲母を微量含む	口縁部～胴部	一部	AY17-084
6	10T	-	遺構確認面	縄文土器	深鉢	胴部：区画沈線文、縄文LR 胎土：1～2mm程度の石英・長石を含む、1mm以下の黒色岩片を含む	口縁部～胴部	一部	AY17-065
7	10T	-	遺構確認面	縄文土器	深鉢	口縁部：横位隆線文 胎土：1mm程度の石英・長石を含む、1mm程度の黒色岩片を少量含む、1mm以下の赤色岩片を微量含む	口縁部	一部	AY17-062
8	14T	-	遺構確認面	縄文土器	深鉢	口縁部：横位隆線文、胴部：区画隆線文、縄文(残存わずか) 胎土：1mm以下の黒色岩片を含む、1mm程度の石英・長石を少量含む、1mm程度の白色岩片を微量含む	口縁部～胴部	一部	AY17-126
9	10T	-	遺構確認面	縄文土器	浅鉢	口縁部～胴部：縦位連続沈線文 胎土：1mm程度の石英・長石を多量含む、1mm程度の黒色・赤色岩片、1～2mm程度の雲母を少量含む	口縁部～胴部	一部	AY17-064
10	10T	-	遺構確認面	縄文土器	深鉢	口縁部：区画・横位沈線文、縄文RL 胎土：1mm程度の石英・長石を含む、1mm以下の黒色岩片を少量含む、1mm以下の雲母を微量含む	口縁部	一部	AY17-048
11	9T	-	排土	縄文土器	深鉢	頸部：横位隆線文、胴部：縄文Lr 胎土：1mm程度の黒色岩片を多量含む、1mm程度の石英・長石を含む、1mm程度の白色岩片を少量含む、1mm程度の雲母を微量含む	口縁部～胴部	一部	AY17-040
12	10T	-	遺構確認面	縄文土器	深鉢	胴部：区画隆線文、縄文LR 胎土：1mm程度の石英・長石を含む、1mm程度の白色岩片を少量含む	胴部	一部	AY17-069
13	10T	-	遺構確認面	縄文土器	深鉢	胴部：区画沈線文、縄文RL 胎土：1mm程度の石英・長石を少量含む、1～2mm程度の白色岩片を少量含む	胴部	一部	AY17-070
14	10T	-	遺構確認面	縄文土器	深鉢	胴部：区画隆線文、縄文LR 胎土：1mm程度の黒色岩片を含む、1mm以下の石英・長石を少量含む、1mm程度の白色岩片を少量含む	胴部	一部	AY17-067
15	11T	-	排土	縄文土器	深鉢	胴部：区画隆線文、縄文LR 胎土：1mm以下の黒色岩片を多量含む、1mm程度の石英・長石を少量含む	胴部	一部	AY17-094
16	10T	-	遺構確認面	縄文土器	深鉢	胴部：縦位・横位隆線文、縄文RLR 胎土：1mm以下の黒色岩片を多量含む、1mm程度の石英・長石を少量含む、1mm以下の白色岩片を微量含む	胴部	一部	AY17-068
17	9T	-	遺構確認面	縄文土器	深鉢	頸部：菱形貼付文、区画隆線文、区画に沿う磨り消し縄文、縄文LR 胎土：1mm程度の白色岩片を多量含む、1mm程度の石英・長石を少量含む、1mm以下の黒色岩片を微量含む	頸部	一部	AY17-015

第3-2表 根方A遺跡 出土遺物観察表(2)

(第11図)

No	調査区	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	残存部位	残存率	登録番号
1	9T	-	遺構確認面	縄文土器	把手付深鉢	橋状把手、胴部：隆線文 胎土：1mm程度の石英・長石を含む、1mm以下の黒色岩片、1～2mm程度の白色岩片、1mm程度の赤色岩片を少量含む、5mm程度の灰色岩片を微量含む	胴部（把手部）	一部	AY17-014
2	10T	-	遺構確認面	縄文土器	把手付深鉢	橋状把手：連続渦巻状沈線文+貫通孔、胴部：横位平行隆線文 胎土：1mm程度の石英・長石をごく少量含む、1mm程度の雲母を微量に含む	胴部（把手部）	一部	AY17-083
3	9T	-	遺構確認面	縄文土器	不明	台部：貫通孔、区画沈線文、縄文LR 胎土：1mm以下の黒色岩片を含む、1mm程度の石英・長石、1mm程度の灰色岩片を少量含む、1mm程度の雲母を微量含む	台部	一部	AY17-013
4	11T	-	排土	ミニチュア土器	深鉢	胴部：縄文LR 底径4.6cm、最大高(3.1cm) 胎土：1mm程度の石英・長石を含む、1mm以下の黒色岩片を少量含む	胴部～底部	一部	AY17-093

(第12図)

No	調査区	遺構名	層位	器種	石材	特徴	法量 (mm・g)				残存率	登録番号
							長	幅	厚	重		
1	11T	-	遺構確認面	石鏃	珪質頁岩	小型の剥片を斜軸に用いる。両面に面的調整の後、縁辺部に細かな剥離による調整を加える。調整は全体に不規則・不連続で、上部左側に厚みを残す。全体形はほぼ正三角形を呈する。平基無茎。	17.0	16.0	5.0	0.8	完形	AY17-089
2	9T	-	遺構確認面	石鏃	紅玉髓	小型の剥片を斜軸に用いる。両面の縁辺部に細かな剥離による調整を加える。調整は素材剥片の打点付近でやや入念だが、全体に不規則・不連続である。全体形は側縁が丸みを持ち、やや歪な正三角形を呈する。平基無茎。	20.5	20.0	5.5	1.7	完形	AY17-030
3	11T	-	遺構確認面	石鏃	珪質頁岩	縦長の剥片を素材とする。正面上部の蝶番状剥離により頭部を欠損した後、上端部に表裏両面からの細かな剥離による再調整を加えている。	32.0	14.0	6.0	1.3	完形	AY17-060
4	12T	-	遺構確認面	石匙	珪質頁岩	剥離面を打面とする縦長剥片を素材とする。素材打面側を頭部(握み部)とし、バルヴ付近に表裏両面からの調整によって抉入部を作出する。身部両側縁の正面側に調整を加え、下端部は尖頭状となる。調整は縁辺部が主体である。裏面側の縁辺の一部に微細剥離が見られる。	57.5	18.0	9.0	5.5	完形	AY17-061
5	11T	-	遺構確認面	削器	珪質頁岩	剥離面を打面とする逆しずく型の剥片を素材とする。両側縁の正面側に連続的な小剥離による調整を加え、下端部は尖頭状となる。調整は縁辺部が主体である。裏面側の縁辺の一部に微細剥離が見られる。	58.5	37.0	8.3	10.2	完形	AY17-087
6	10T	-	遺構確認面	二次加工ある剥片	玉髓	自然面を打面とする不定形剥片を素材とする。調整は部分的で全体を整形する意図は見られない。裏面左側縁上部に細かな調整で抉入部を作出する。	39.0	51.5	15.2	18.1	完形	AY17-059
7	12T	SX36	敷石	磨石	花崗岩	やや扁平な楕円形の円礫を素材とする。両面の平坦面に磨面。	91.1	63.7	41.4	341.0	完形	AY17-121
8	12T	SX36	敷石	磨石	溶結凝灰岩	やや扁平な楕円形の円礫を素材とする。両面の平坦面に磨面。両面の中央部に敲打による浅い凹痕。右側縁周辺に被熱による赤色化と剥落痕。	121.0	89.6	50.6	721.5	略完形	AY17-120

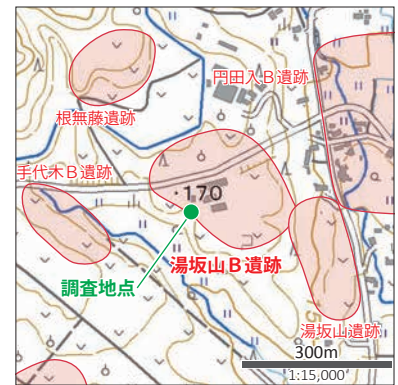
(第13図)

No	調査区	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	残存部位	残存率	登録番号
1	7T	-	遺構確認面	ロクロ土師器	坏	外面：ロクロナデ、内面：ミガキ→黒色処理	口縁部	一部	AY17-0002
2	9T	SI12	確認面	ロクロ土師器	甕	内外面：ロクロナデ 口径(20.8)cm	口縁部～頸部	一部	AY17-0006
3	7T	SI6	確認面	ロクロ土師器	甕	内外面：ロクロナデ ※胴部外面に粘土付着 口径(22.0)cm	口縁部～体部	一部	AY17-0005
4	10T	SI16	堆積土	赤焼土器	坏	内外面：ロクロナデ、底部外面：回転系切り→無調整	口縁部～底部	3/4	AY17-0086
5	7T	-	遺構確認面	須恵器	坏	内外面：ロクロナデ	口縁部～体部	一部	AY17-0001
6	7T	-	遺構確認面	須恵器	甕	外面：タタキ、内面：ナデ 底径(14.0)cm	底部	一部	AY17-0003
7	9T	-	遺構確認面	須恵器	甕	外面：平行タタキ→ハクメ、内面：同心円アテ具痕	体部	一部	AY17-0007

2. 湯坂山B遺跡

調査要項 (第2表15)

遺跡名	湯坂山B遺跡 (遺跡登録番号 05023)
調査原因	鳥インフルエンザ緊急対策用地整備計画
調査箇所	蔵王町大字円田字湯坂山 45-2
調査期間	平成29年10月30日
対象面積	217㎡
調査面積	40㎡
調査主体	蔵王町教育委員会
調査員	鈴木雅



第14図 調査地点位置図

遺跡の概要 松川左岸の遠刈田段丘面上に立地し、縄文時代の集落および弥生時代の散布地として登録されている。周辺には湯坂山遺跡、円田入B遺跡、根無藤遺跡、手代木B遺跡など縄文時代の遺跡が多く分布する。本遺跡の範囲は東西約300m、南北約250mで、南東方向に約3.8%の勾配で緩やかに傾斜する。本遺跡では平成3年に町道堀の内柵倉線改良計画に伴う発掘調査を実施し、縄文時代中期後葉（大木9・10式期）の集落跡を確認している（註2）。

調査の成果 工事計画地内の遺構の分布状況を把握するため、トレンチ5か所を設定して調査を実施した（第15図）。基本層序はⅠ層：表土、Ⅱ層：現代の盛土、Ⅲ層：黒ボク土、Ⅳ層：漸移層となる。Ⅱ層は層厚110～130cm、Ⅲ層は層厚80～170cmを確認し、埋没谷地形の谷頭部を盛土整地していることが判明した。遺構確認面はⅣ層上面である。調査の結果、1・4・5トレンチのⅢ層中から縄文土器（第16図1～4）が出土したが、遺構は確認されなかったことからトレンチの位置等を記録して調査を終了した。また、調査地点北側の道路法面で縄文土器・土製品（第16図5）が表面採集された。縄文土器は概ね縄文時代中期後葉（大木9式期）頃のものと考えられる。

註2. 菊地逸夫 1994「縄文時代」『蔵王町史 通史編』蔵王町史編さん委員会
蔵王町教育委員会 2016「蔵王東麓の縄文遺跡群—蔵王山麓の森と縄文人の暮らし—」蔵王町文化財リーフレット②



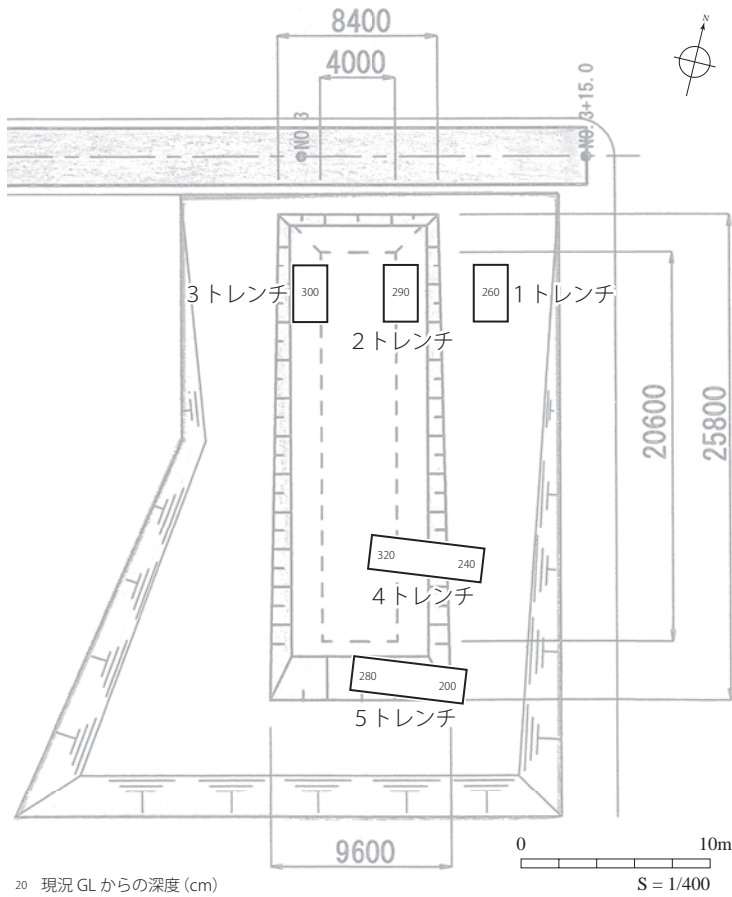
写真33 遺跡全景 (西から簡易空撮, ▲の交点が調査地点)



写真34 調査前現況 (北東から)



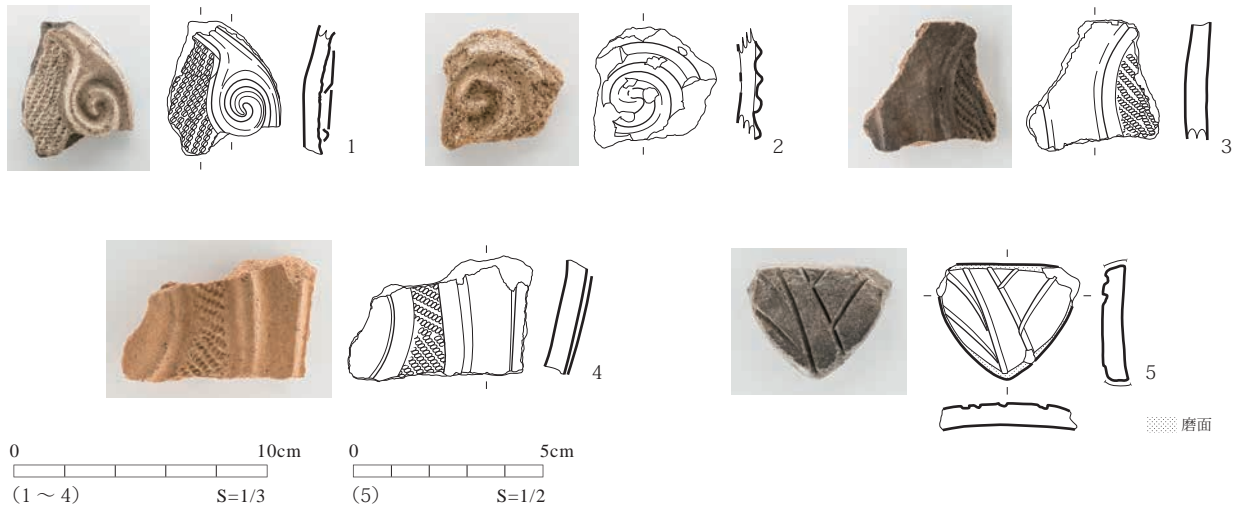
写真35 調査前現況 (北から)



第15図 トレンチ配置図



写真36 4トレンチ (西から)



No	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	残存部位	残存率	登録番号
1	1T	Ⅲ層	縄文土器	深鉢	胴部：区画隆沈線文，渦巻状隆沈線文，縄文RLR 胎土：1mm以下の石英・長石を少量含む，1mm以下の雲母を微量含む	胴部	一部	OX17-002
2	1T	Ⅲ層	縄文土器	深鉢	胴部：渦巻状隆線文 胎土：1mm程度の黒色岩片を多量に含む，1mm程度の石英・長石を少量含む，1mm程度の赤色岩片を微量含む	胴部	一部	OX17-003
3	4T	Ⅲ層	縄文土器	深鉢	胴部：区画隆沈線文，縄文LR 胎土：1mm以下の石英・長石を少量含む，1mm以下の黒色岩片を少量含む	胴部	一部	OX17-009
4	5T	Ⅲ層	縄文土器	深鉢	胴部：区画隆線文，縄文LR 胎土：1mm以下の黒色岩片を多量に含む，1mm程度の石英・長石を少量含む	胴部	一部	OX17-010
5	-	表採	土製品	三角形土製品	土器片素材（胴部：弧状沈線文），側面：全周を研磨，長：3.0cm，幅：(3.65)cm，厚：0.6cm 胎土：1mm以下の石英・長石を含む	-	略完形	OX17-017

第16図 湯坂山B遺跡出土遺物

3. 東浦遺跡

調査要項 (第2表 16)

遺跡名	東浦遺跡 (遺跡登録番号 05062)
調査原因	永野児童館駐車場整備計画
調査箇所	蔵王町大字円田字東上 2-2
調査期間	平成 29 年 10 月 31 日
対象面積	192m ²
調査面積	19m ²
調査主体	蔵王町教育委員会
調査員	鈴木雅



第17図 調査地点位置図

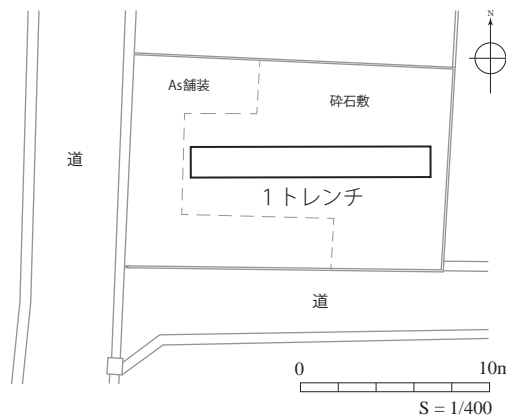
遺跡の概要 松川左岸の矢附段丘面上に立地し、縄文・弥生・古墳時代、古代の散布地として登録されている。周辺には上野遺跡・西浦遺跡・西浦C遺跡など縄文・弥生・古代の遺跡が多く分布する。本遺跡の範囲は東西約 200 m、南北約 600m で、南東方向に約 2.5% の勾配で僅かに傾斜する。本遺跡では、今回調査地点の南東約 120m の地点で平成 5 年に東北大学文学部考古学研究室が学術調査を実施し、弥生時代中期(円田式期)の遺物包含層を確認している(註3)。

註3. 東北大学考古学研究室 1993
「東浦遺跡」平成5年度宮城県遺跡調査成果発表会 発表要旨集

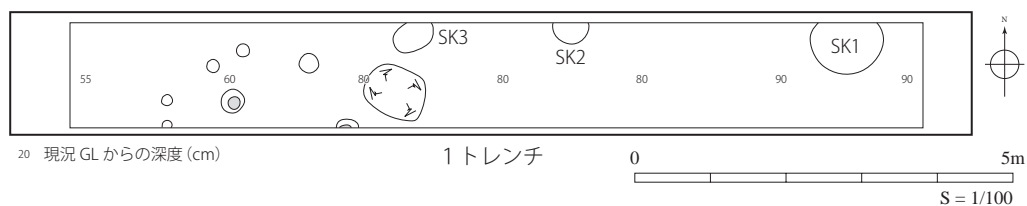
調査の成果 工事計画地内の遺構の分布状況を把握するため、トレンチ1か所を設定して調査を実施した。基本層序はⅠ層:現代の整地、Ⅱ層:旧耕作土1、Ⅲ層:旧耕作土2、Ⅳ層:青灰色火山砂混じり黒ボク土、Ⅴ層:黒ボク土、Ⅵ層:漸移層上部、Ⅶ層:漸移層下部となる。遺構確認面はⅥ層中位である。旧地形は東へ向かって僅かに傾斜している。

調査の結果、土坑3基、柱穴7基を確認した。このうちSK1土坑は直径約100cmで、一部を掘削したところフラスコ状を呈することから貯蔵穴と考えられた。柱穴は平面形が直径20~40cm程度の円形で、2基で直径20cm弱の柱痕跡を確認した。遺物は出土しなかった。

今回の工事による新たな掘削はなく、遺構面に直接的な影響は及ばないことから確認した遺構は現状保存とすることで合意した。



第18図 トレンチ配置図



第19図 遺構配置図



写真 37 調査前現況 (西から)



写真 38 基本層序 (1トレンチ東部北壁)



写真 39 1トレンチ (西から)



写真 40 1トレンチ (東から)



写真 41 SK1土坑断面 (南から, 底面未検出)



写真 42 柱穴確認状況 (北から)

第2節 分布調査

1. 上原田遺跡ほか

調査要項

遺跡名	①上原田遺跡（別称：境松遺跡，遺跡登録番号 05004） ②逆川遺跡（遺跡登録番号 05081）
調査箇所	①蔵王町宮字上原田 地内 ②蔵王町曲竹字小原・川原前 地内
調査期間	平成 29 年 3 月 15・27 日，4 月 5 日
調査主体	蔵王町教育委員会
調査協力	東北歴史博物館
調査員	相原 淳一（東北歴史博物館上席主任学芸員） 佐藤 洋一・鈴木 雅



第20図 遺跡位置図

遺跡の概要 青麻山東麓部を迂回して南流する松川が右岸に形成した矢附段丘面は、背後を黄金川など青麻山東麓部から流れる小河川によって浸食を受け、南北に長い三日月形の残丘状の地形となっている。この残丘の西部を笹谷街道が南北に通じ、南側には近世の片倉家御不断鉄砲組が駐在居住した「鉄砲町」が位置する（註1）。また、残丘の北部は旧宮村・曲竹村境となっており、以前は「境松」の地名があった（註2）。遺跡は残丘の北部に逆川遺跡・上原田遺跡、南部に下原田遺跡・中野B遺跡が立地する。また、青麻山東麓部の丘陵と接続する同一段丘面上に二屋敷遺跡・根方A遺跡が立地する。

上原田遺跡は縄文時代早期～後期、古墳時代、古代の散布地として登録されている。1950年代に佐藤庄吉によって遺物が採集され、「宮司境松遺跡」（註3）あるいは「境松遺跡」（註4）として周知されてきた。1961年には東北大学の林謙作が調査を行ない、開墾および開田工事による攪乱範囲で薄手無文土器、縄文土器、石器などを採集している（註5）。このとき、遺物の一部は軟質のローム層に食い込んでいたとされる。これまでに縄文土器（大木1・8b式、南境式）、土師器、須恵器、石器（石鏃・石匙）が採集されている。

逆川遺跡は縄文時代早・前・後期の散布地として登録されている。上原田遺跡と同様に1950年代に佐藤庄吉によって遺物が採集され、「曲竹境松遺跡」として周知されてきた（註3に同じ）。これまでに縄文土器（素山2式、大木1式、南境式）、石器（石鏃・石匙）、土師器、須恵器が採集されている。

調査の経緯 上原田遺跡では、現状の遺跡範囲の外側でも過去に遺物が採集されている（註6）。また、林謙作氏による調査は2地点で行なわれ、うち1地点は遺跡範囲の外側に位置していることが判明した（註7）。本遺跡周辺は複数の工場などが立地し、今後も比較的高い確率で開発等が予想される地区である。このため、早期に適切な遺跡範囲を把握し周知する必要があると判断し、東北歴史博物館の協力を得て分布調査を実施することになった。

調査の成果 上原田遺跡と逆川遺跡が立地する残丘北部の微地形および後世の地形改変状況、遺物の表面散布状況の確認を行なった。残丘東縁は5～6mの

註1. 小紫敏・平間喜栄・猪岡近男・風間観静 1989「宿駅と集落絵図」『蔵王町史 資料編Ⅱ』蔵王町史編さん委員会

註2. 鹿島茂 1993「地名」『蔵王町史 民俗生活編』蔵王町史編さん委員会

旧村境を挟んで宮・曲竹地区側にそれぞれ「境松」の地名があった。現在は小字名の統合によって宮字上原田、曲竹字川原前に含まれている。宮地区側には現在も「境松」のバス停がある。

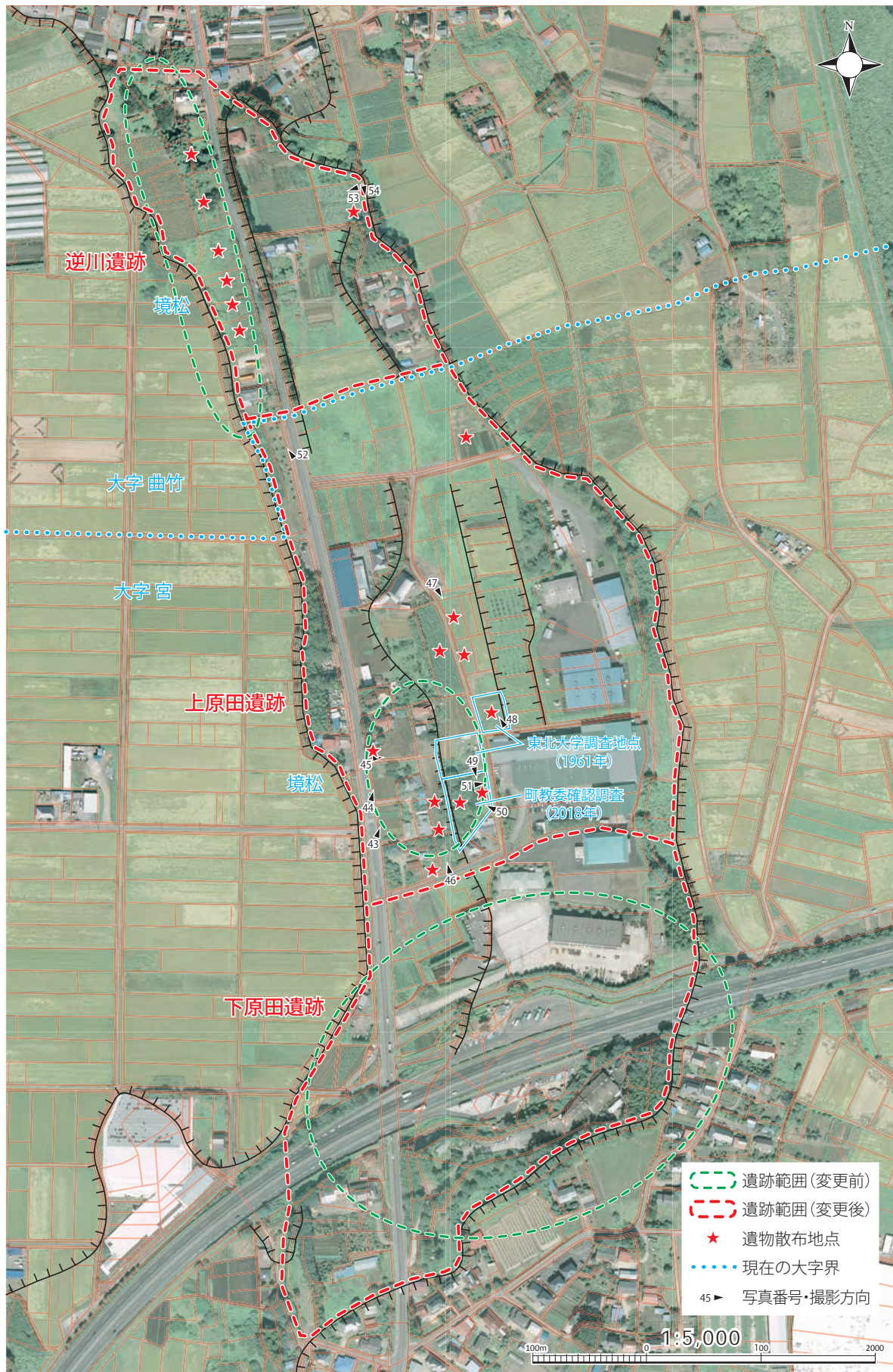
註3. 佐藤庄吉 1957「刈田郡全域土器石器調査表」不忘郷土研究所

註4. 伊東信雄 1957「宮城県史 第1巻 古代史」宮城県史刊行会
註5. 林謙作 1962「東北地方早期縄文式文化の展望」考古学研究 9-2 考古学研究会

相原淳一 2016「宮城県における薄手無文土器の再検討—宮城県蔵王町上原田遺跡・明神裏遺跡—」東北歴史博物館研究紀要 17

註6. 相原淳一氏の教示による。

註7. 調査地点の土地を所有する地元住民の教示による。調査地点は道を挟んで東西に各1地点で、西向き緩斜面にある西側地点は盛土によって平坦に造成されて資材置場となっている。東側の地点は平坦地で畑となっている。



第21図 上原田遺跡・逆川遺跡の分布調査結果

高低差を持った崖線となっており、東部には主に畑地となっている平坦な段丘面と、後背湿地と考えられる南北に長い窪地が水田区画に反映して遺存する。西部には一段低く3～4mの高低差を持った崖線が観察され、西縁に沿って狭い平坦面が延びている。東部の平坦面(上位面)は松川右岸に形成した矢附段丘面、西部の狭い平坦面(下位面)は矢附段丘面を侵食した黄金川などの小河川が左岸に形成した低位段丘面と考えられる。従来の上原田遺跡・逆川遺跡の範囲は、この低位段丘面にはほぼ収まっている。周辺は切り盛り造成により水田・畑の造成が行なわれ、またいくつかの工場立地部などで比較的大規模な削平が行なわれている。このため、残丘上には旧地形を比較的残す部分と造成による平坦地とがモザイク状に分布しているが、造成による平坦地でも低位部側では盛土下に旧地形が残存していると考えられる。

上原田遺跡では、北東側の畑地(上位面)に比較的濃密な遺物散布が広がることを確認した。1961年の東北大学調査地点は上位面に立地しており、遺物散布を確認した。なお、2018年の確認調査地点(第2表23)でも若干の遺物が表面採集されたが、確認調査では落とし穴状土坑1基を確認したほかは遺構・遺物とも認められなかった。採集した遺物には縄文土器、土師器、須恵器、剥片がある。縄文土器は胎土に繊維を含まず無文のもの、胎土に繊維を含み前々段多条の単節縄文を施すものがあり、それぞれ縄文時代早期・前期のものと考えられる。

逆川遺跡では、県道西側の畑地(下位面)で過去に濃密な遺物散布が確認されているが(註6に同じ)、東側の畑地(上位面)でも新たに遺物の散布が確認された。採集した遺物には縄文土器がある。

以上のことから、上原田遺跡・逆川遺跡周辺の遺物散布は残丘上のほぼ全域に及ぶことが判明した。遺物散布の密度は地点により粗密があるものの、後世の地形改変による影響も考慮すべきである。このため、残丘全体を遺跡範囲として捉え、試掘確認調査等によって内容の把握を進めることが適当と考えられた。これに基づいて上原田遺跡・逆川遺跡および南側に隣接する下原田遺跡の範囲を変更し、平成30年4月に宮城県教育庁文化財課へ通知した。



写真43 上原田遺跡の現況(南西から)



写真44 上原田遺跡の現況(「境松」のバス停、南西から)



写真45 上原田遺跡の現況(西から)



写真46 上原田遺跡の現況(南から)



写真 47 上原田遺跡東側の段丘面 (北から)



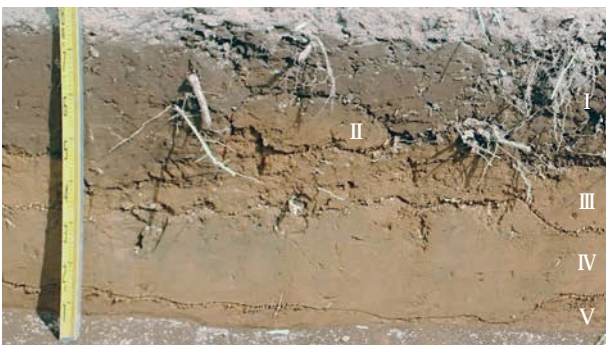
写真 48 上原田遺跡東側の段丘面 (手前が東北大学調査地点, 南から)



写真 49 上原田遺跡の確認調査 (北から)



写真 50 上原田遺跡の確認調査 (南東から)



I層：表土（暗褐色シルト、畝溝状の耕作痕を伴う）、II層：漸移層、III層：黄褐色ローム層、IV層：青灰色火山砂ブロック混じり明黄褐色黄褐色ローム層 (Za-Kw：蔵王川崎スコリア層)、V層：明黄褐色ローム層

写真 51 上原田遺跡の確認調査 (土層断面, 西から)



写真 52 逆川遺跡現況 (南から)



写真 53 逆川遺跡東側の段丘面 (東から)



写真 54 逆川遺跡東側の段丘崖 (北から)



No	遺跡名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	残存部位	残存率	登録番号
1	上原田	表採	縄文土器	深鉢	口縁部：(内外面) ナデ 器厚 6.5mm 胎土：1mm 程度の石英・長石を含む	口縁部	一部	AL17-0009
2	上原田	表採	縄文土器	深鉢	胴部：(内外面) ナデ 器厚 4.1mm 胎土：1mm 以下の石英・長石・輝石を少量含む	胴部	一部	AL17-0015
3	上原田	表採	縄文土器	深鉢	胴部：(内外面) ナデ 器厚 5.1mm 胎土：1mm 程度の石英・長石を含む	胴部	一部	AL17-0011
4	上原田	表採	縄文土器	深鉢	胴部：(内外面) 器面の損耗が著しい 器厚 (5.4) mm 胎土：1mm 程度の石英・長石を少量含む, 1mm 以下の黒色岩片を少量含む	胴部	一部	AL17-0012
5	上原田	表採	縄文土器	深鉢	胴部：(内外面) ナデ 器厚 6.4mm 胎土：1mm 程度の石英・長石を含む, 1mm 以下の黒色岩片を少量含む	胴部	一部	AL17-0013
6	上原田	表採	縄文土器	深鉢	胴部：(外面) ナデ, (内面) ミガキ 器厚 5.7mm 胎土：1mm 程度の石英・長石を少量含む, 1mm 以下の黒色岩片を微量含む	胴部	一部	AL17-0003
7	上原田	表採	縄文土器	深鉢	胴部：(内外面) ナデ 器厚 5.2mm 胎土：1mm 程度の石英・長石を含む	胴部	一部	AL17-0007
8	上原田	表採	縄文土器	深鉢	胴部：(内外面) ナデ 器厚 9.4mm 胎土：1mm 程度の石英・長石を含む	胴部	一部	AL17-0014
9	上原田	表採	縄文土器	深鉢	胴部：(内外面) 器面の損耗が著しい 器厚 10.8mm 胎土：1mm 程度の石英・長石を少量含む, 1mm 程度の白色岩片を微量含む, 繊維混入	胴部	一部	AL17-0019
10	上原田	表採	縄文土器	深鉢	胴部：(外面) 縦位沈線文, 縄文か, (内面) ナデ, (内外面) 器面の損耗が著しい 器厚 6.8mm 胎土：1mm 以下の黒色岩片を少量含む, 1mm 程度の石英・長石を微量含む	胴部	一部	AL17-0008
11	上原田	表採	縄文土器	深鉢	胴部：(外面) 縄文 LR (前々段多条), (内面) ナデ 器厚 (8.7) mm 胎土：1mm 程度の石英・長石を少量含む, 1mm 程度の赤色・白色岩片を少量含む, 繊維混入	胴部	一部	AL17-0001
12	上原田	表採	縄文土器	深鉢	胴部：(外面) 縄文 LR (前々段多条), (内面) ナデ 器厚 7.9mm 胎土：1mm 程度の石英・長石を少量含む, 1mm 以下の赤色・白色岩片を少量含む, 繊維混入	胴部	一部	AL17-0002
13	上原田	表採	縄文土器	深鉢	胴部：(外面) 縄文 RL, (内面) ナデ 器厚 5.8mm 胎土：1mm 程度の石英・長石を含む	胴部	一部	AL17-0010
14	上原田	表採	縄文土器	深鉢	胴部：(外面) 刷毛目文, (内面) ナデ 器厚 6.3mm 胎土：1mm 以下の石英・長石を含む, 1mm 以下の黒色岩片を多く含む	胴部	一部	AL17-0005
15	逆川	表採	縄文土器	深鉢	胴部：(外面) 細条痕文, (内面) ナデ 器厚 5.9mm 胎土：1mm 以下の石英・長石を多く含む	胴部	一部	AZ18-0001

No	遺跡名	層位	器種	石材	特徴	法量 (cm・g)				残存率	登録番号
						長	幅	厚	重		
16	上原田	表採	剥片	珪質頁岩	単剥離面打面から剥離された縦横比が 1:1 に近い剥片。背面 1 稜で先行する剥離面はいずれも主剥離面と同一方向からの打撃による。古い潜在割れ面に凝灰質の薄層が発達する。	27.2	24.3	6.6	10.8	完形	AL17-0004
17	上原田	表採	剥片	珪質頁岩	単剥離面打面から剥離された縦横比が 2:1 に近い縦長剥片。背面はポジティブな剥離面で、主剥離面と直交方向からの打撃による。右側縁に凝灰質表皮を残置する。	23.4	12.8	4.0	3.7	完形	AL17-0017
18	上原田	表採	剥片	珪質頁岩	単剥離面打面から剥離された縦横比が 2:1 に近い縦長剥片。背面 1 稜で先行する剥離面はいずれも主剥離面と同一方向からの打撃による。打点部がリップ形状を呈することや、側面観から両面調整剥片 (ポイントフレイク) の可能性がある。	18.9	9.9	2.9	1.3	完形	AL17-0018

第 22 図 上原田遺跡ほか 採集遺物

第4章 総括

1. 本書では、平成 29 年度に実施した埋蔵文化財保存協議の概要と、これに伴って実施した確認調査および分布調査のうち、下記の調査について報告した。
 - (1) 各種開発事業と遺跡の関わりの詳細を確認する目的で実施した確認調査
(3 件 3 遺跡)
 - (2) 各種開発事業が予想される地区で実施した分布調査
(1 件 2 遺跡)

2. 確認調査では、下記のことが明らかになった。
 - (1) 根方 A 遺跡

店舗建築・用地造成工事の計画地は遺跡範囲南部の緩斜面に立地する。調査の結果、縄文時代中期後葉の竪穴住居跡 7 軒、敷石遺構 1 基、平安時代の竪穴住居跡 7 軒などを確認した。縄文時代の竪穴住居跡は複式炉、平安時代の竪穴住居跡は石組みカマドを付設するものがある。遺物は遺構確認面などから縄文土器・石器・礫石器・ロクロ土師器・赤焼土器・須恵器などが出土した。
 - (2) 湯坂山 B 遺跡

鳥インフルエンザ対策用地整備工事の計画地は遺跡範囲南西部の台地縁辺に立地する。調査の結果、埋没谷地形を確認した。遺物は縄文土器などが少量出土した。
 - (3) 東浦遺跡

永野児童館駐車場整備工事の計画地は遺跡範囲北西部の段丘面に立地する。調査の結果、時期不明の貯蔵穴など少数の遺構を確認した。遺物は出土しなかった。

3. 分布調査では、下記のことが明らかになった。
 - (1) 上原田遺跡ほか

上原田遺跡・逆川遺跡は、青麻山東麓部と松川に挟まれた南北に長い三日月形を呈する残丘状地形に立地する。東部の上位面は松川が形成した矢附段丘面であり、西部の下位面は黄金川が上位面を侵食した後に形成した低位段丘面と考えられる。従来の遺跡範囲は主に西部の下位面に立地していたが、現地踏査の結果、東部の上位面にも広範囲に遺物散布が広がることが判明した。上原田遺跡における 1961 年の東北大学調査地点は、上位面に立地している。今回採集した遺物は縄文土器・石器・土師器・須恵器である。

4. 本書で報告した調査成果は、町内の遺跡が内包する膨大な情報の中の僅かな一滴に過ぎないが、蔵王東麓の地域史解明に寄与する貴重な記録である。

蔵王町文化財調査報告書目録

- (1990) 『堀ノ内遺跡』
- 第 1 集 (1997) 『堀の内遺跡』
- 第 2 集 (2002) 『諏訪館前遺跡』
- 第 3 集 (2005) 『都遺跡ほか (都遺跡・窪田遺跡・新城館跡)』
- 第 4 集 (2006) 『車地蔵遺跡・鍛冶屋敷遺跡ほか』
- 第 5 集 (2007) 『中沢 A 遺跡』
- 第 6 集 (2008) 『六角遺跡－経営体育成基盤整備事業 (県営ほ場整備事業) に伴う緊急発掘調査－』
- 第 8 集 (2009) 『戸ノ内遺跡－経営体育成基盤整備事業 (県営ほ場整備事業) に伴う緊急発掘調査－』
- 第 9 集 (2009) 『青竹遺跡』
- 第 10 集 (2011) 『西浦 B 遺跡－商業施設出店計画に伴う緊急発掘調査－』
- 第 11 集 (2011) 『窪田遺跡－経営体育成基盤整備事業 (県営ほ場整備事業) に伴う緊急発掘調査－』
- 第 12 集 (2011) 『小原遺跡－特別養護老人ホーム増床事業に伴う緊急発掘調査－』
- 第 13 集 (2011) 『十郎田遺跡 1－経営体育成基盤整備事業 (県営ほ場整備事業) に伴う緊急発掘調査－』
- 第 14 集 (2011) 『十郎田遺跡 2－経営体育成基盤整備事業 (県営ほ場整備事業) に伴う緊急発掘調査－
SE66 井戸跡出土木製遺物編 附 十郎田遺跡出土木製遺物に関する自然科学的分析』
- 第 15 集 (2012) 『西屋敷遺跡－経営体育成基盤整備事業 (県営ほ場整備事業) に伴う緊急発掘調査－』
- 第 16 集 (2013) 『前戸内遺跡－経営体育成基盤整備事業 (県営ほ場整備事業) に伴う緊急発掘調査－』
- 第 17 集 (2014) 『磯ヶ坂遺跡－経営体育成基盤整備事業 (県営ほ場整備事業) に伴う緊急発掘調査－』
- 第 18 集 (2014) 『蔵王町内遺跡発掘調査報告書 1 (平成 18～24 年度)』
- 第 19 集 (2014) 『円田盆地の遺跡群 1
－経営体育成基盤整備事業 (県営ほ場整備事業) に伴う緊急発掘調査<総括編>－』
- 第 20 集 (2015) 『蔵王町内遺跡発掘調査報告書 2 (平成 25 年度)』
- 第 21 集 (2016) 『蔵王町内遺跡発掘調査報告書 3 (平成 26 年度)』
- 第 22 集 (2017) 『蔵王町内遺跡発掘調査報告書 4 (平成 27 年度)』
- 第 23 集 (2018) 『西屋敷遺跡 2－農地整備事業 (円田 2 期地区) に伴う緊急発掘調査－』
- 第 24 集 (2018) 『蔵王町内遺跡発掘調査報告書 5 (平成 29 年度)』

(編集機関：蔵王町教育委員会)

報告書抄録

ふりがな	ざおうちようないいせきはつちつちようさほうこくしょ6							
書名	蔵王町内遺跡発掘調査報告書6							
副書名	各種開発事業に伴う確認調査・分布調査（平成29年度）							
巻・次								
シリーズ名	蔵王町文化財調査報告書							
シリーズ番号	第25集							
編著者名	鈴木雅							
編集機関	蔵王町教育委員会							
所在地	〒989-0821 宮城県刈田郡蔵王町大字円田字西浦5 TEL 0224-33-2018 FAX 0224-33-2019							
発行年月日	西暦2019年（平成31年）3月29日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
ねがた 根方A遺跡	蔵王町 宮字持長地 104-1 地内	43010	05076	38° 03' 42"	140° 39' 06"	2017.07.27 ～ 2017.08.28	552㎡	店舗建築・用地 造成計画
ゆがかやま 湯坂山B遺跡	蔵王町大字 円田字湯坂山 45-2	43010	05023	38° 06' 41"	140° 38' 56"	2017.10.30	40㎡	鳥インフルエン ザ緊急対策用地 整備計画
ひがしうら 東浦遺跡	蔵王町大字 円田字東上 2-2	43010	05062	38° 05' 41"	140° 39' 37"	2017.10.31	19㎡	永野児童館駐車 場整備計画
かみほらだ 上原田遺跡 (境松遺跡)	蔵王町 宮字上原田 地内	43010	05004	38° 04' 21"	140° 39' 37"	2018.03.15 ～ 2018.04.05	—	分布調査
さかさがわ 逆川遺跡	蔵王町 曲竹字小原・ 川原前 地内	43010	05081	38° 04' 34"	140° 39' 31"	2018.03.15 ～ 2018.04.05	—	分布調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
根方A遺跡	集落	縄文	竪穴住居跡7軒 敷石遺構1基 遺物包含層6箇所 土坑12基 柱穴5基		縄文土器（大木9～10式期） 石器（石鏃・石匙・削器・剥片・碎片） 礫石器（磨石）		確認調査。複式炉とみられる石組み を付設する竪穴住居跡がある。	
	集落	平安	竪穴住居跡7軒 土坑2基 柱穴9基		ロクロ土師器 赤焼土器 須恵器		確認調査。燃焼部と煙道を石組みで 構築したカマドを付設する竪穴住居 跡がある。	
	集落	古代以降	溝跡3条				確認調査。西側に隣接する山家館跡 に関連する遺構の可能性がある。	
	狩猟場	時期不明	落とし穴状土坑2基		なし		確認調査。	
湯坂山B遺跡	集落	縄文	なし		縄文土器 土製品（三角形土製品）		確認調査。台地縁辺の埋没谷地形。	
東浦遺跡	散布地	不明	フラスコ状土坑1基 土坑2基 柱穴7基		なし		確認調査。	
上原田遺跡 (境松遺跡)	散布地	縄文	—		縄文土器 石器（剥片）		分布調査。新たに確認した遺物散布 地点を含めるよう範囲変更。	
	散布地	古代	—		土師器・須恵器			
逆川遺跡	散布地	縄文	—		縄文土器		分布調査。新たに確認した遺物散布 地点を含めるよう範囲変更。	
要約	平成29年度に実施した確認調査・分布調査の成果について報告した。主な成果は下記の通り。							
	＜確認調査＞							
	根方A遺跡	縄文時代中期後葉の複式炉を付設する竪穴住居跡・敷石遺構、平安時代の石組みカマドを付設する竪穴住居跡などを確認した。遺物は縄文土器・石器・ロクロ土師器・赤焼土器・須恵器などが出土した。						
	湯坂山B遺跡	台地縁辺の埋没谷地形を確認した。遺構は確認されなかった。遺物は縄文土器などが少量出土した。						
東浦遺跡	時期不明の貯蔵穴など少数の遺構を確認した。遺物は出土しなかった。							
＜分布調査＞								
上原田遺跡・逆川遺跡	残丘状地形の広範囲に遺物散布を確認した。縄文土器・石器・土師器・須恵器などを表面採集。							

印刷製本仕様

製 本：A4 判(縦)、無線(あじろ)綴じ、並製本
ページ数：48ページ

印 刷：表 紙 オフセット印刷、片面4色刷り、280線
本文等 オフセット印刷、両面4色刷り、210線

用 紙：表 紙 コート180kg (PP貼加工)
本文等 ホワイトマットコート90kg

原稿形式：Adobe® InDesign® CS5.5 (7.5.3) PDF/X-1a:2001
(OS：Microsoft® Windows® 7 Professional)

ISSN 2188-2525

蔵王町文化財調査報告書 第25集

蔵王町内遺跡発掘調査報告書 6

各種開発事業に伴う確認調査・分布調査 (平成29年度)

根方A遺跡・湯坂山B遺跡・東浦遺跡・上原田遺跡ほか

2019年(平成31年)3月29日 印刷・発行

編集・発行 蔵王町教育委員会

〒989-0821 宮城県刈田郡蔵王町大字円田字西浦5

T E L 0224-33-2018 F A X 0224-33-2019

印刷・製本 株式会社 グラフィック

